

## I 総括報告

法人の令和5年度収支決算は、資金収支差額が約△42,288千円で4年連続の赤字となりました。こうした状況を踏まえ、令和5年度も継続して組織横断的にプロジェクトチームを設置し、事業経営改善に向けた検討、取組を進め、令和4年度の実質的資金収支差額より約150,769千円の赤字圧縮は図られたものの法人全体の事業経営は依然として厳しい状況が続いています。中でも通所介護事業の収入の伸び悩みが続いていることから介護保険事業収入の現状分析を重ね、また、園児数の減少により保育園の事業収入の落ち込みも顕著となることから、保育園の再編統合の検討に入り、さらには、事業収入の財源を投入している地域福祉の推進体制も含めた見直しを行い、人件費削減、収益性の高い事業への転換、利用率向上の取組等を視点に事業改善を継続して進めました。

法人運営については、社会福祉法人として円滑で強固な組織体制と組織運営、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉の各事業の持続可能な経営を視点に事業展開を図りました。

同時に、鶴岡市社協の事業運営の基本となる「地域福祉活動計画」「発展・強化計画」「事業経営計画」<sup>1</sup>それぞれに掲げた課題に計画的に取り組み、特に、地域福祉については、住民の具体的な生活課題や地域課題を受け止め、個別支援（見守り、生活困窮、ひきこもり、高齢者・障がい者・児童に対する虐待）と地域支援において社会福祉協議会に求められている今日的な役割や期待、置かれている現状、課題を再認識しながら推進を図りました。

新型コロナウイルス感染状況については、継続して感染予防対策を講じながら事業継続に努めました。職員の感染者が199人（前年度236人）、サービス利用者の感染者が196人（前年度635人）でいずれも令和4年度より減少し、また、感染症法上5類に移行したことを受け、その対応も緩和されたことから各事業とも停止することなく、事業収入への大幅な影響を回避することができました。

### 重点事業

#### (1) 法人運営の充実・強化

総務課、職員厚生課が所管する「発展・強化計画（第3期）」（3年次）に基づき、組織体制と組織運営の強化や組織統治（ガバナンス）、労務管理体制の強化に継続して取り組みました。また、人材育成については、新たに株式会社ビズアップ総研（WEB研修）の研修プログラムを活用し、特に階層別研修を計画的に実施し法人全体の底上げを図りました。

旧「まちキネ」建物の改修による本部事務局移転初年度として、法人運営部門、地域福祉推進部門それぞれの機能が低下しないように努め、同時に、本部事務局スペースを活用し新たに通所介護事業（通所型サービスA<sup>2</sup>「はつらつ元気まちトレ」）を開始しました。更に、映画館機能の存続に配慮しながら、山王まちづくり株式会社による映画館「まちキネ」との協議を計画的に進めました。

---

<sup>1</sup> 「地域福祉活動計画」「発展・強化計画」「事業経営計画」：巻末(P.213～)にそれぞれの計画の体系を掲載。

<sup>2</sup> 通所型サービスA：高齢者が自宅での生活を続けられるよう運動やレクリエーションに取り組み、身体機能の維持・向上を図るサービスのこと。

令和4年度に引き続き、厳しい事業経営の現状を打開するために、事業全体の方向性（戦略）を検討するプロジェクトを継続して設置し、デイサービスの統合や定員の見直し、生活介護事業所の定員等の見直し、地域福祉推進体制におけるセンター長の減員等、具体的な対応、改善策を議論しながら令和6年度につなげました。

## (2) 地域福祉活動の推進

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（3年次）、及び「地域支え合いプラン」における活動目標に基づき、地域福祉の推進に継続して取り組みました。各センターにおける主な活動としては、各関係機関と連携した支援困難世帯の情報共有と包括的な支援体制（ネットワーク）の構築、更に、農福連携事業や認知症カフェ、サロン活動の展開、「安心カード」の見直し、地域の支え合い活動への支援等を行いました。

重層的支援体制整備事業移行準備事業（市委託）については、モデル地区において各専門職（機関）と連携し、高齢、障がい、子ども、生活困窮の分野を超えた包括的な支援体制の構築を進めながら、現状から見えてくる課題の整理、評価等を行い、次年度に向けた取組について市担当課と協議を行いました。また、地域包括支援センター毎に地域福祉ワーカー（コミュニティソーシャルワーカー）を配置し、課題を抱えている方、地域で孤立している方などの把握に努めながら、コミュニティソーシャルワーク<sup>3</sup>機能の充実を更に図りました。

厳しい事業経営の現状を踏まえ、事業収益が投入されている地域福祉の推進体制の見直しを行い、センター長機能を本部で統括する体制に切り替えながら、一元的な推進体制を構築することとしました。

事務局の一部移転により、鶴岡市総合保健福祉センター（にこ♥ふる）に残った地域福祉課、生活支援課、鶴岡市ボランティアセンター、鶴岡市障害者相談支援センターの連携を一層密にしながら個別支援、地域支援に取り組みました。

## (3) 生活支援事業の推進

生活支援課の事業の中心である、日常生活自立支援事業（日常的な金銭管理等の支援等）成年後見推進事業（法人後見）については、相談支援機関や関係機関と連携を密にし、また法人後見運営委員会からの助言を受けながら事業展開を図りました。

成年後見制度中核機関の運営（市委託）については、利用促進連携協議会準備会議の開催や支援困難ケース会議の開催、また、研修会の企画・実施、広報活動を計画的に進め、中核機関としての体制整備、機能充実に努めました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による支援資金借受世帯への対応については、貸付支援相談員の配置（県社協委託）を通じ、借受世帯への面接等による状況確認、償還指導や要件に該当すると思われる方への償還免除申請を進めながら、生活の安定につながるよ

---

<sup>3</sup> コミュニティソーシャルワーク：援助を個別化するだけでなく、地域（社会）共通の課題と捉え、個人の援助とそれを支える地域（社会）の活動への支援を同時並行的に働きかけていく活動。

う支援しました。

個人や企業、地域住民、社会福祉法人からの協力を得て、緊急的に食料支援が必要な方への支援活動としてフードバンクの取組を継続して進めました。

#### (4) 高齢者福祉、障がい者福祉事業の充実

「第三期鶴岡市社協事業経営計画」(3年次)に掲げた「基本的な視点」と「重点課題」に基づいた取組を計画的に進めました。また、新規事業として本部事務局のスペースを活用した通所介護事業(通所型サービスA「はつらつ元気まちトレ」)の展開を計画的に進めることができ、同事業の課題を整理しながら、今後の通所介護事業の方向性を更に検討しました。

令和6年度の介護保険サービス、障害福祉サービスの報酬改定への対応については、事業推進課を中心に常に情報収集や対応策に努め、更に専門職を講師とした研修を企画・実施しながら準備に備えたことで、スムーズに事務事業を進めることができました。

法人運営財源の中心である介護保険事業については、令和4年度との比較で、一部の事業所でサービス利用者数の増加があったものの、全体的には事業収入が伸び悩み、依然と厳しい状況が続いていることから、各事業の経営状況の把握、分析を行い、デイサービスセンターの統合や定員見直し等安定した事業運営について検討、見直しを継続して進めました。

また、障害福祉サービスについても、新規利用者の確保が困難な状況にあり、介護保険事業と同様に各事業の経営状況の把握、分析を行い、新たに生活介護事業所の定員、利用対象者の見直しを進めました。

#### (5) 児童福祉事業の充実

「第三期鶴岡市社協事業経営計画」(3年次)に掲げた「重点課題」に基づいた取組を計画的に進めました。また、専門職(保育士、児童厚生員、支援員)としての資質の向上や事業間の連携強化を図りながら事業運営に努めました。

保育園の運営体制については、少子化の影響により入園児が減少し、更には、慢性的な保育士不足や建物の老朽化に対する修繕費等の維持経費の増嵩が見込まれることから、現在の4つの保育園を2つの保育園に統合することで、持続可能な保育園運営とする方針を定めました。

児童館の運営については、自由来館者数が前年度より増加し、また、各事業とも通常の開催に戻り始めており、引き続き感染予防対策を行いながら、地域の子どもや親子の居場所づくりに努めました。

学童保育所の運営体制については、第四学区学童保育所で定員を大きく上回る登録児童の受入れをしていることから、市担当課との協議を行い、旧鶴岡市南部保育園を借用し利用児童の居場所を確保することで準備を進めました。

## Ⅱ 法人運営

### 【令和5年度役員】

	職名	氏名
R5. 4. 1	会長	山木知也
	副会長	阿部真一、阿部和廣、阿部恵子
	常務理事	伊藤周一
	理事	畑山孝一、渋谷俊美、原田みゆき、佐藤妙子、伊藤秀紀、武田憲夫、阿部英子、平藤久喜、伊藤彦市、澤邊みさ子
	監事	相澤康夫、佐藤満也、原田洋
	評議員	佐々木榮三、鈴木淳士、櫻井修治、土岐純一、沓澤実 (R5. 6. 28 まで)、五十嵐満、難波和博、五十嵐俊道、榎本光男、五十嵐誠一、大瀧博勝、本間健一、大川厚子、佐藤きく子 (R6. 3. 31 まで)、佐藤こず恵、石川一郎、佐藤保政、中嶋悦、佐藤満子、松田修一 (R5. 6. 28 まで)、日向常浩、千田洋子、橋本廣美、五十嵐武、加藤由喜子、平藤博巳、菅原しづ子、五十嵐庄一
R5. 6. 12	評議員	鈿持孝文 (R6. 3. 31 まで)、青澤豊一 (R6. 3. 31 まで)、五十嵐收一、菅原青 (R5. 9. 30 まで)、白井覚、宮崎吉成 (R6. 3. 31 まで)、村井勢一
R5. 6. 27 (一斉改選)	会長	山木知也
	副会長	阿部真一、阿部和廣、阿部恵子
	常務理事 (事務局長兼務)	佐藤豊継
	理事	畑山孝一、佐藤繁義、渋谷俊美、原田みゆき、阿部仁、伊藤秀紀、武田憲夫、平藤久喜、伊藤彦市、阿部英子、澤邊みさ子
	監事	相澤康夫、佐藤満也、原田洋
R5. 9. 27	評議員	高山与一、吉宮茂
R5. 12. 5	評議員	齋藤芳

## 1. 理事会・評議員会開催報告

### 第1回理事会 令和5年6月9日（金）

#### 【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所型サービスA事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の一部改正について
- 報告3 指定共同生活援助事業所温海グループホーム茶ヤ町荘運営規程の一部改正について
- 報告4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会感染症対策実施要綱の制定について

#### 【議事】

- 議第1号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事務代決及び専決に関する規程の一部改正について
- 議第2号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
- 議第3号 令和4年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
- 議第4号 令和4年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算の承認について
- 議第5号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について
- 議第6号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第7号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第8号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第9号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第10号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第11号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第12号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第13号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第14号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第15号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第16号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第17号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第18号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第19号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第20号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第21号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第22号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
- 議第23号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
- 議第24号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

議第25号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和5年度第1回評議員会の開催について

議第26号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について

議第27号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和5年度第1回評議員選任委員会の開催について

## **第2回理事会 令和5年6月27日（火）**

### **【議事】**

議第28号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会会長の選定について

議第29号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定について

議第30号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会常務理事の選定について

議第31号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について

## **第3回理事会 令和5年9月14日（木）**

### **【報告】**

報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

報告3 指定通所介護事業所デイサービスセンターたかだて運営規程の一部改正について

報告4 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所デイサービスセンターたかだて運営規程の一部改正について

報告5 指定通所介護事業所デイサービスセンターおおやま運営規程の一部改正について

報告6 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所デイサービスセンターおおやま運営規程の一部改正について

報告7 指定就労継続支援事業（B型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について

### **【議事】**

議第32号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

議第33号 継続による指定管理者の指定申請について

議第34号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について

議第35号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和5年度第2回評議員選任委員会の開催について

#### 第4回理事会 令和5年12月1日（金）

##### 【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 継続による指定管理者の内定について
- 報告4 指定生活介護事業所なえづ生活介護事業所運営規程の一部改正について

##### 【議事】

- 議第36号 指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所  
デイサービスセンターはちもり運営規程の廃止について
- 議第37号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 議第38号 令和5年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第39号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和5年度第2回評議員会の開催について
- 議第40号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
- 議第41号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和5年度第3回評議員選任委員会の開催について

#### 第5回理事会 令和6年3月15日（金）

##### 【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 指定通所介護事業所デイサービスセンターとようら運営規程の一部改正について
- 報告4 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所  
デイサービスセンターとようら運営規程の一部改正について
- 報告5 ユニット型指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームおおやま運営規程  
の一部改正について
- 報告6 ユニット型指定短期入所生活介護（ユニット型指定介護予防短期入所生  
活介護）事業所短期入所センターおおやま運営規程の一部改正について
- 報告7 指定短期入所事業所短期入所センターおおやま運営規程の一部改正につ  
いて
- 報告8 指定共同生活援助事業所温海グループホーム茶ヤ町荘運営規程の一部改  
正について
- 報告9 指定認知症対応型共同生活介護（指定介護予防認知症対応型共同生活介  
護）事業所グループホームはちもり運営規程の一部改正について

- 報告 1 0 施設運営規程に個人情報保護に係る規定を追加することに伴う関係  
規程の一部改正について
- 報告 1 1 給食費等改定に伴う保育園運営規程の一部改正について

**【議事】**

- 議第 4 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正  
について
- 議第 4 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 議第 4 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 議第 4 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
- 議第 4 6 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規  
程の一部改正について
- 議第 4 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する  
規程の一部改正について
- 議第 4 8 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する  
規程の一部改正について
- 議第 4 9 号 放課後児童健全育成事業所第四学区学童保育所運営規程の一部改正につ  
いて
- 議第 5 0 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算につい  
て
- 議第 5 1 号 令和 6 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第 5 2 号 令和 6 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について
- 議第 5 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和 5 年度第 3 回評議員会の開催に  
ついて
- 議第 5 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決に関わる第三者委員の選任  
について

**第 1 回評議員会 令和 5 年 6 月 2 7 日（火）**

**【報告】**

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事務代決及び専決に関する規程の一部  
改正について
- 報告 3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
- 報告 4 令和 4 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算について

**【議事】**

- 議第 1 号 令和 4 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
- 議第 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について



議第 3 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 4 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 5 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 6 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 7 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 8 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 9 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 10 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 11 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 12 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 13 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 14 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 15 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 16 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 17 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 18 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
議第 19 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
議第 20 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
議第 21 号	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

## 第 2 回評議員会 令和 5 年 1 2 月 1 9 日（火）

### 【報告】

報告 1	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告 2	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
報告 3	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
報告 4	指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所 デイサービスセンターはちもり運営規程の廃止について
報告 5	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
報告 6	継続による指定管理者の内定について
報告 7	指定通所介護事業所デイサービスセンターたかだて運営規程の一部改正 について
報告 8	介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所 デイサービスセンターたかだて運営規程の一部改正について
報告 9	指定通所介護事業所デイサービスセンターおおやま運営規程の一部改正 について
報告 10	介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所 デイサービスセンターおおやま運営規程の一部改正について

- 報告 1 1 指定就労継続支援事業（B型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について
- 報告 1 2 指定生活介護事業所なえづ生活介護事業所運営規程の一部改正について

**【議事】**

- 議第 2 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について
- 議第 2 3 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について

**第 3 回評議員会 令和 6 年 3 月 2 6 日（火）**

**【報告】**

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告 3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 報告 4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 報告 5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 報告 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
- 報告 7 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 8 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 9 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 1 0 指定通所介護事業所デイサービスセンターとようら運営規程の一部改正について
- 報告 1 1 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所デイサービスセンターとようら運営規程の一部改正について
- 報告 1 2 ユニット型指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームおおやま運営規程の一部改正について
- 報告 1 3 ユニット型指定短期入所生活介護（ユニット型指定介護予防短期入所生活介護）事業所短期入所センターおおやま運営規程の一部改正について
- 報告 1 4 指定短期入所事業所短期入所センターおおやま運営規程の一部改正について
- 報告 1 5 指定共同生活援助事業所温海グループホーム茶ヤ町荘運営規程の一部改正について

- 報告 1 6 指定認知症対応型共同生活介護（指定介護予防認知症対応型共同生活介護）事業所グループホームはちもり運営規程の一部改正について
- 報告 1 7 施設運営規程に個人情報保護に係る規定を追加することに伴う関係規程の一部改正について
- 報告 1 8 給食費等改定に伴う保育園運営規程の一部改正について
- 報告 1 9 放課後児童健全育成事業所第四学区学童保育所運営規程の一部改正について
- 報告 2 0 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決に関わる第三者委員の選任について

**【議事】**

- 議第 2 4 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第 2 5 号 令和 6 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第 2 6 号 令和 6 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について

**2. 要綱等の制定及び一部改正**

- 令和 5 年 4 月 1 日 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 7 月 1 日 感染症対策に関する指針の制定
- 9 月 1 日 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 1 1 月 1 日 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会永年勤続職員表彰基準の一部改正
- 1 2 月 1 日 職務専念義務免除要綱の一部改正
- 令和 6 年 2 月 8 日 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 3 月 1 日 特定処遇改善加算手当支給基準の一部改正  
処遇改善支援手当支給基準の一部改正
- 3 月 1 5 日 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正  
処遇改善補助手当支給基準の制定  
相談支援業務手当支給基準の制定

### 3. 監査実施報告

#### 第1回監査 令和5年5月25日(木)

【内容】 令和4年度事業報告及び決算等に係る監査

#### 第2回監査 令和5年8月29日(火)

【内容】 施設(もみじが丘/茶ヤ町荘/温海福祉センター)訪問による監査(令和5年4月~令和5年6月期)

#### 第3回監査 令和5年11月15日(水)

【内容】 令和5年度半期(令和5年4月~令和5年9月期)監査

### 4. 会計監査人による監査実施報告

#### 期末監査 令和5年5月11日(木)~5月13日(土)

令和5年5月17日(水)~5月19日(金)

【内容】 令和4年度計算書類及び財産目録の監査

#### 第1回期中監査 令和5年11月27日(月)~12月1日(金)

【内容】 監査(令和5年4月~令和5年9月期)、施設訪問(とようら/はちもり)

#### 第2回期中監査 令和6年3月25日(月)~3月29日(金)

【内容】 監査(令和5年10月~令和6年1月期)、施設訪問(高齢者福祉センターおおやま(訪問介護事業所おおやまサテライト含む))

### 5. 理事協議会実施状況

#### 令和5年9月14日(木)

- 【内容】
1. 通所介護事業所の事業統合について
  2. 短期入所生活介護の特別養護老人ホームへの一部転換について(おおやま)
  3. 通所介護事業所の定員変更について(おおやま)
  4. 障害福祉サービス事業所の定員変更について(もみじが丘)
  5. 保育園の統合について
  6. 地域福祉推進体制の見直しについて

## 6. 事業推進報告

- 令和5年4月 1日 鶴岡市社協本部事務局移転  
2日 新本部事務局 安全祈願祭  
3日 辞令交付式（本部事務局）
- 20日 車両リースに係る入札会（送迎車両関係）（郵送入札）  
指名業者：7社  
落札者：㈱トヨタレンタリース山形  
落札金額：2,838,000円（5年リース）  
（税込3,121,800円）  
※鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま 1台分  
事業経営会議（本部事務局）
- 24日 社協広報紙「おだがいさま」発行に係る印刷製本業務委託入札会  
（本部事務局）  
指名業者：4社  
落札者：鶴岡印刷㈱  
落札金額：1,077,000円（税込1,184,700円）  
地域福祉部門センター長・所長合同会議（本部事務局）
- 26日 車両リースに係る入札会（軽自動車関係）（郵送入札）  
指名業者：7社  
落札者：㈱トヨタレンタリース山形  
落札金額：3,618,000円（5年リース）  
（税込3,979,800円）  
※居宅介護支援センターなえづ、訪問介護事業所とようらサテライト、訪問介護事業所ふれあいサテライト 3台分  
学区・地区社会福祉協議会連絡委員会幹事会  
（保健福祉センター）
- 27日 第1回事業経営計画全体会議（本部事務局）
- 28日 第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議  
（保健福祉センター）
- 5月11日 会計監査人による期末監査①（～13日まで・本部事務局）  
17日 会計監査人による期末監査②（～19日まで・本部事務局）  
18日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会（保健福祉センター）  
24日 複合機の新規リース及び保守契約に係る入札会（本部事務局）  
指名業者：3社  
落札者：㈱鶴岡電子計算センター  
落札金額：2,998,800円（5年リース）  
（税込3,298,680円）  
※鶴岡西部児童館、鶴岡南部児童館 2施設分

- 25日 令和4年度事業報告及び決算等に係る監事監査（本部事務局）
- 31日 三役会議（本部事務局）
- 6月 5日 令和6年度職員採用試験募集開始（～7/14まで）
- 6日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 9日 第1回理事会（本部事務局）
- 12日 第1回評議員選任委員会（本部事務局）
- 14日 鶴岡西部児童館運営委員会（鶴岡西部児童館）
- 15日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）
- 20日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
- 22日 大山児童館運営委員会（大山児童館）
- 児童福祉施設に対する指導監査（鶴岡西部児童館）
- 児童福祉施設に対する指導監査（大山児童館）
- 26日 介護職員初任者研修開講式（本部事務局／4名）
- 27日 第1回評議員会、第2回理事会（本部事務局）
- 児童福祉施設に対する指導監査（中央児童館）
- 29日 複合機の新規リース及び保守契約に係る入札会（本部事務局）
- 指名業者：5社
- 落札者：ツルカンシステム㈱
- 落札金額：1,862,700円（5年リース）
- （税込2,048,970円）
- ※高齢者福祉センターおおやま 2台分
- 児童福祉施設に対する指導監査（鶴岡南部児童館）
- 児童福祉施設に対する指導監査（暘光児童館）
- 7月 3日 第1回法人後見運営委員会（本部事務局／16名）
- 4日 鶴岡南部児童館運営委員会（鶴岡南部児童館）
- 苦情処理経過報告会議（本部事務局）
- 5日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 10日 藤島地域福祉委員会（藤島庁舎）
- 18日 羽黒地域福祉委員会（広瀬地区地域活動センター）
- 26日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 27日 事業経営会議（本部事務局）
- 30日 職員採用一次試験（本部事務局／13名）
- 8月 1日 温海地域福祉委員会（温海庁舎）
- 2日 令和5年7月14日からの大雨による災害支援
- 秋田市社会福祉協議会への支援
- ・ボランティア活動 活動人数5名
- 4日 高齢者福祉センターおおやま厨房内冷蔵庫及び冷凍庫設置工事に  
係る入札会（高齢者福祉センターおおやま）

- 指名業者：3社  
 落札者：ホシザキ東北㈱
- 落札金額：1,920,000円（税込2,112,000円）
- 19日 職員採用二次試験（本部事務局／10名）
- 25日 令和5年7月14日からの大雨による災害支援  
 秋田市社会福祉協議会への支援  
 ・ボランティア活動 活動人数5名
- 26日 鶴岡市社協公開研修（市内福祉施設・事業所等 役職員対象）  
 映画「30（さんまる）」上映・トークディスカッション  
 （鶴岡まちなかキネマ／73名）
- 29日 監事監査（令和5年4月～6月期・もみじが丘／茶ヤ町荘／温海福祉センター）
- 9月 4日 令和5年7月14日からの大雨による災害支援  
 秋田市社会福祉協議会への支援  
 ※山形県社会福祉協議会による応援要請に基づくもの  
 ・災害ボランティアセンターへの職員派遣 9/4～9/10  
 派遣実人数2名 派遣延人数8名
- 5日 三役会議（本部事務局）
- 11日 介護職員初任者研修修了式（本部事務局／4名）
- 12日 職場代表者会議（オンライン開催）
- 14日 第3回理事会、理事協議会（本部事務局）  
 児童福祉施設に対する指導監査（くしびき西部保育園）
- 20日 第1回社会福祉法人連携における公益的な取組にかかる連絡会  
 （保健福祉センター）
- 23日 鶴岡市戦没者追悼式（荘内神社参集殿／93名）
- 26日 朝日地域福祉委員会（朝日中央コミュニティセンター）
- 27日 第2回評議員選任委員会（本部事務局）
- 10月 10日 表彰審査委員会（保健福祉センター）
- 17日 介護保険施設等運営指導、鶴岡市通所介護相当サービス事業者等  
 運営指導（くしびき）
- 21日 職員内部登用一次試験（本部事務局／2名）
- 11月 9日 指定障害福祉サービス事業者等実地指導（鶴岡市障害者相談支援センター）  
 事業経営会議（本部事務局）
- 10日 車両リースに係る入札会（送迎、訪問用軽自動車関係）  
 （郵送入札）
- 指名業者：7社  
 落札者：住友三井オートサービス㈱南東北支店

落札金額：3,330,000円（5年リース）

（税込3,663,000円）

※デイサービスセンターふれあい、訪問介護事業所くしびきサテライト、鶴岡市障害者相談支援センター 3台分

- 14日 社協表彰状贈呈式（本部事務局）  
三役会議（本部事務局）
- 15日 令和5年度半期決算に係る監事監査（本部事務局）
- 16日 職員内部登用二次試験（本部事務局／2名）
- 17日 第2回日常生活自立支援事業 生活支援員会議（保健福祉センター）
- 21日 鶴岡市社協安全運転研修会（本部事務局）  
地域密着型サービス事業者等運営指導（地域包括支援センターかたりあい）
- 22日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 27日 会計監査人による期中監査（～12月1日まで）  
（本部事務局・とようら／はちもり）
- 28日 児童福祉施設に対する指導監査（くしびき東部保育園）
- 29日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 12月 1日 第4回理事会、役員等研修会（本部事務局）
- 5日 第3回評議員選任委員会（本部事務局）  
児童福祉施設に対する指導監査（くしびき保育園、くしびき南部保育園）
- 6日 車両リースに係る入札会（総務課軽自動車）（郵送入札）  
指名業者：7社  
落札者：芙蓉オートリース(株)東北支店  
落札金額：1,308,000円（5年リース）  
（税込1,438,800円）  
※本部事務局総務課 1台分
- 7日 無期労働契約説明会（本部事務局／月給制契約職員対象6名）
- 13日 無期労働契約説明会（本部事務局／時間給制契約職員対象2名）  
はちもり給湯設備改修工事入札会（本部事務局）  
指名業者：5社  
落札者：山形空調(株)  
落札金額：4,200,000円（税込4,620,000円）
- 14日 歳末たすけあい募金配分委員会（本部事務局）  
令和5年度鶴岡市成年後見制度研修会（保健福祉センター）
- 18日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）
- 19日 第2回評議員会（本部事務局）



- 令和6年1月11日 指定障害福祉サービス事業者等実地指導（鶴岡市ゆうあいプラザ  
わくわく生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所）
- 14日 令和6年能登半島地震災害に係る街頭募金活動（主婦の店パル店  
／S-MALL）
- 15日 令和6年能登半島地震災害に係る街頭募金活動（主婦の店パル店  
／S-MALL）
- 17日 令和6年能登半島地震災害に係る街頭募金活動（主婦の店パル店  
／S-MALL）
- 19日 放課後児童クラブ通信ネットワーク整備業務委託に係る入札会  
指名業者：4社  
落札者：㈱鶴岡電子計算センター  
落札金額：2,100,000円（税込2,310,000円）
- 2月 7日 鶴岡市成年後見制度利用促進連携協議会準備会議（保健福祉セン  
ター）
- 8日 事業経営会議（本部事務局）
- 9日 藤島地域福祉委員会（藤島庁舎）
- 14日 第2回法人後見運営委員会（本部事務局／16名）
- 15日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 16日 羽黒地域福祉委員会（羽黒コミュニティセンター）
- 21日 温海地域福祉委員会（温海庁舎）  
令和5年度権利擁護支援検討会議（市役所）
- 26日 朝日地域福祉委員会（朝日中央コミュニティセンター）
- 3月 5日 第2回社会福祉法人連携における公益的な取組にかかる連絡会  
（保健福祉センター）
- 6日 三役会議（本部事務局）
- 12日 第2回事業経営計画全体会議（本部事務局）
- 13日 職場代表者会議（本部事務局）
- 15日 第5回理事会（本部事務局）
- 22日 本部事務局清掃業務委託に係る入札会  
指名業者：3社  
落札者：㈱庄交コーポレーション 庄交クリーン  
落札金額：999,600円（税込1,099,560円）
- 25日 会計監査人による期中監査（～29日まで）  
（本部事務局・高齢者福祉センターおおよま（訪問介護事業所お  
およまサテライト含む））
- 26日 第3回評議員会（本部事務局）
- 29日 退職辞令交付式（本部事務局）

高齢者福祉センターおおやま一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬  
業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）

指名業社：3社

落札者：(有)大滝商店

落札金額：2,343,000円（税込2,577,300円）

高齢者福祉センターおおやま防火対象物点検業務及び消防設備等  
点検業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）

指名業者：3社

落札者：山形ニッタン(株)庄内支社

落札金額：974,000円（税込1,071,400円）

#### （令和6年度）

4月 1日 辞令交付式（本部事務局）

12日 第1回福祉センター会議（第三学区コミュニティセンター）

18日 事業経営会議（本部事務局）

22日 社協広報紙「おだがいさま」発行に係る印刷製本業務委託入札会  
（本部事務局）

指名業者：4社

落札者：鶴岡印刷(株)

落札金額：894,000円（税込983,400円）

24日 鶴岡市戦没者追悼式（庄内神社参集殿／90名）

25日 車両リースに係る入札会（送迎、訪問用軽自動車）（郵送入札）

指名業者：7社

落札者：住友三井オートサービス(株)南東北支店

落札金額：11,184,000円（5年リース）

（税込11,647,800円、非課税車両3台含む）

※地域福祉課、たかだて、はちもり、訪問介護事業所本部、訪問  
介護事業所とようらサテライト、訪問介護事業所おおやまサテ  
ライト、地域包括支援センターなえづ 7台分

第1回事業経営計画全体会議（本部事務局）

30日 第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議（本部事務局）

5月 7日 複合機の新規リース及び保守契約に係る入札会（本部事務局）

指名業者：4社

落札者：ツルカンシステム(株)

落札金額：1,332,000円（5年リース）

（税込1,465,200円）

※鶴岡ふれあいプラザかたりあい 1台分

9日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会（本部事務局）

- 13日 会計監査人による期末監査①（～15日まで・本部事務局）  
15日 第2回福祉センター会議（保健福祉センター）  
20日 地域福祉課、鶴岡市ボランティアセンターが鶴岡市総合保健福祉センター（にこ♥ふる）から鶴岡ふれあいプラザかたりあいに移転  
会計監査人による期末監査②（～22日まで・本部事務局）  
28日 令和5年度事業報告及び決算等に係る監事監査（本部事務局）  
29日 三役会議（本部事務局）

## 7. 広報「おだがいさま」発行状況

- 第105号 4月1日発行  
第106号 6月1日発行  
第107号 8月1日発行  
第108号 10月1日発行  
第109号 12月1日発行  
第110号 2月1日発行

## Ⅲ 組織運営

### (1) 社会福祉法人としての適正な運営

組織統治（ガバナンス）の強化に積極的に取り組むとともに、コンプライアンスを徹底し適正な法人運営に努めました。

監事及び会計監査人の指摘事項や指導内容については、原因分析と迅速かつ適切に対応することで、健全な法人運営の推進を図りました。

### (2) 健全経営と経営基盤の強化

法人全体の経営状況が大変厳しい状況となっていることから、経営基盤の安定と強化を図り持続可能な事業展開を進めるため、プロジェクトチーム（事務局長、総務課、職員厚生課、事業推進課から選出された職員）を設置し、各事業の事業分析による事業評価を基に経営改善を進めました。

### (3) 労務管理体制の強化と職員処遇改善への取組

勤怠管理システムについては、安定運用と管理方法の確立に取り組みました。

職員の処遇改善については、相談支援業務に従事する職員に対する手当支給について検討し、令和6年度から実施することにしました。また、最低賃金の引き上げに伴い、契約職員等の給料表の見直しは実施したものの、財政状況が厳しい状況から全職員の賃金改善には至りませんでした。

魅力ある職場づくりへの取組の一環として、やまがた健康企業宣言に登録し、協会けんぽから提供される事業所カルテなどを活用しながら、職員の健康課題の把握、健康改善・増進に向けた取組等を産業医と連携しながら進めました。

### (4) 人材確保と人財育成の推進

人材確保については、法人の経営戦略を見据えた採用計画に基づき一般採用試験と内部登用試験を実施し、8人を採用し必要な人材の確保に努めました

人財育成の取組については、「人財育成基本方針」に基づき、社協の職員像の共有を図るとともに、それぞれの職位において求められる役割を学ぶ機会として階層別研修（ウェブ研修と集合研修）を実施しました。また、児童部門の職員を対象としたパソコン研修を実施し、業務遂行のためのスキルアップを図りました。

### (5) 「発展・強化計画（第3期）」の推進

第3期計画の実施スケジュールに基づいた取組を各課や事業経営計画とも連携を図りながら進め、効果的な計画の推進に努めました。

<会員・会費の状況>

地域	会員区分		31(R1)年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
鶴岡	一般会員（世帯）		26,922	27,883	27,850	26,862	27,177
	賛助会員	個人	832	851	843	805	817
		事業所	414	404	394	387	385
	会費額		15,945,630	15,913,800	15,731,140	15,504,175	15,500,845
藤島	一般会員（世帯）		2,572	2,597	2,613	2,584	2,573
	賛助会員	個人	2	3	3	3	3
		事業所	28	22	23	22	22
	会費額		1,390,700	1,382,000	1,392,000	1,376,000	1,372,400
羽黒	一般会員（世帯）		2,037	2,021	2,025	2,070	2,023
	賛助会員	個人	3	3	3	2	2
		事業所	24	22	23	22	21
	会費額		1,097,500	1,079,500	1,086,500	1,107,000	1,083,000
櫛引	一般会員（世帯）		1,816	1,815	1,819	1,816	1,792
	賛助会員	個人	132	132	132	120	108
	会費額		1,040,000	1,039,500	1,043,500	1,029,000	1,004,000
朝日	一般会員（世帯）		1,102	1,083	1,081	1,063	1,051
	賛助会員	個人	4	4	3	3	7
		事業所	22	22	23	21	22
	会費額		638,000	632,600	636,500	620,500	613,500
温海	一般会員（世帯）		2,438	2,374	2,343	2,289	2,236
	賛助会員	個人	37	37	40	35	20
		事業所	59	58	57	56	53
	会費額		1,483,000	1,449,000	1,411,500	1,382,500	1,329,000
合計	一般会員（世帯）		36,887	37,773	37,731	36,684	36,852
	賛助会員	個人	1,010	1,030	1,024	968	957
		事業所	547	528	520	508	503
	会費額		21,594,830	21,496,400	21,301,140	21,019,175	20,902,745

<職員の状況>

(単位：人)

年 月	職員数	内 訳				
		正規	嘱託	契約 (常勤)	契約 (パート)	市派遣
H31.4	831	310	19	201	300	1
R2.4	825	313	18	195	298	1
R3.4	821	311	23	186	300	1
R4.4	800	298	21	195	286	0
R5.4	756	287	22	181	266	0
R5.5	760	287	22	179	272	0
R5.6	758	287	22	179	270	0
R5.7	761	286	22	181	272	0
R5.8	767	287	22	183	275	0
R5.9	758	286	22	183	267	0
R5.10	761	287	21	182	271	0
R5.11	764	285	22	184	273	0
R5.12	765	285	22	184	274	0
R6.1	765	285	22	186	272	0
R6.2	761	285	22	187	267	0
R6.3	763	285	22	188	268	0

<職員の給与の状況>

(令和6年3月31日現在)

項目 職位	平均年齢	平均 俸給月額	平均 勤続年数	人数	性別内訳	
					男	女
局長・次長・参事・課長級	56.0歳	314,120円	24.5年	5人	3人	2人
施設長・センター長級	54.3歳	286,633円	23.5年	18人	8人	10人
主査・係長級	49.5歳	250,754円	21.1年	28人	9人	19人
主任・副主任級	45.5歳	221,184円	15.9年	96人	29人	67人
主事級	38.4歳	200,445円	7.3年	138人	30人	108人
全 体	43.2歳	219,748円	12.5年	285人	79人	206人

<職員の資格取得状況> (令和6年3月31日現在)

資 格	人数
社会福祉士	50人
精神保健福祉士	7人
保健師、看護師（正看・准看）	69人
理学療法士、作業療法士	6人
介護支援専門員	95人
介護福祉士	270人
社会福祉主事	119人
介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級含む）	286人
保育士	106人
管理栄養士	4人

※重複あり

<職員採用の状況>

正規職員採用試験（内部登用含む）

		R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	31(R1)年度
応募者数		15人	16人	20人	25人	25人
採用者数		7人	11人	16人	16人	18人
資 格	社会福祉士	0人	3人	2人	1人	0人
	介護福祉士	4人	4人	2人	4人	9人
	介護支援専門員	0人	1人	2人	1人	1人
	看護師（正・准）	1人	3人	1人	3人	2人
	その他	2人	0人	9人	7人	6人
退職者数		14人	12人	19人	16人	15人

<保有車両の状況>

(令和6年3月31日現在)

	バス	普通自動車	軽自動車	福祉車両	計
事務局	2台	4台	8台	3台	17台
福祉センター	1台	2台	2台	3台	8台
包括・支援センター	—	—	23台	—	23台
通所（高齢・障がい）	—	4台	4台	40台	48台
入居施設 （特養・グループホーム）	—	1台	—	3台	4台
訪問介護	—	—	23台	—	23台
児童・保育	4台	—	1台	—	5台
合 計	7台	11台	61台	49台	128台

<災害援護金>

火災等の災害に見舞われた世帯に援護金を支給しました。

	R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鶴岡福祉センター	6 件	110,000 円	6 件	110,000 円	8 件	160,000 円
藤島福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
羽黒福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
櫛引福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	1 件	10,000 円
朝日福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
温海福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
合計	6 件	110,000 円	6 件	110,000 円	9 件	170,000 円

<旅費等一時援護金>

旅費等に困窮し、目的地まで到達できない方に隣接市町村までの旅費等を支給しました。

(支給金額：隣接市町村までの旅費等)

	R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鶴岡福祉センター	11 件	20,690 円	4 件	5,360 円	11 件	11,240 円
温海福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
合計	11 件	20,690 円	4 件	5,360 円	11 件	11,240 円



## IV 事業運営

### 1. 地域福祉事業

#### (1) 総括

鶴岡市全域を対象とした第3次地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（令和3年度～令和7年度）の3年目として、計画に基づき地域福祉活動の実践に努めました。また、学区・地区社会福祉協議会等や各福祉センターにおいては、それぞれの小地域福祉活動計画「地域支え合いプラン」（令和3年度～令和7年度）に基づき、地域特性に応じた住民主体の地域福祉活動を推進しました。

コミュニティソーシャルワークの実践として、地域福祉課及び福祉センターの地区担当職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、民生委員・児童委員や自治組織、各相談支援機関と連携し対応することで周知の機会となり、訪問や同行支援など丁寧に課題解決に向け取り組むことで相談対応件数の増加につながっています。

令和4年度より鶴岡市より受託した重層的支援体制整備事業移行準備事業については、2年目の令和5年度は対象エリアを鶴岡地域・櫛引地域に拡大し多機関協働事業を実施し、各相談支援機関や地域福祉ワーカーが対応している複雑・複合化した課題を抱える世帯の支援について支援会議等により課題の共有、対応の確認を行いました。

#### (2) 重点事業

##### ① 地域福祉活動計画及び地域支え合いプランの推進

第3次地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」に沿った事業推進のため、地域福祉部門（地域福祉課、生活支援課、各福祉センター、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、地域生活自立支援センター）において、令和5年度も継続して単年度ごとの評価管理シートによる進行管理を行いました。地域支え合いプランについては、鶴岡地域においては、学区・地区社会福祉協議会等の地域福祉推進基礎組織が、進行管理・評価シートによりプランの検証及び取組の検討を行いながら事業を推進し、更に、学区・地区社協情報交換会を開催し各地区のプラン実施状況を共有しました。地域庁舎エリア（藤島、羽黒、櫛引、朝日、温海）の福祉センターにおいては、地域福祉委員会により地域支え合いプランに基づいた事業の検証、協議し、住民主体の取組を推進しました。

##### ② コミュニティソーシャルワークの実践

地域包括支援センター11 エリアごとに地域福祉ワーカーを配置し、民生委員・児童委員及び自治組織、相談支援機関等からの情報提供、情報収集により、制度の狭間にある課題を抱える方、相談に行く力がなく地域で孤立している方などの把握に努め、訪問や同行支援、社会参加の機会へつなぐなど、関係機関、地域組織との連携、協働により相談支援を図りました。

### ③ 重層的支援体制整備事業移行準備事業(2年目)の実施

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するため、相談支援・参加支援・地域づくりに向けた支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業への移行準備事業を、令和4年度に引き続き鶴岡市より受託し、重層的支援体制の機能である多機関協働事業を実施しました。令和5年度は、地域包括支援センターエリアを3エリアから7エリア(鶴岡地域、櫛引地域)に拡大し取り組み、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、生活自立支援センター、子ども家庭支援センターと連携し、相談支援機関が抱える困難ケースについて支援会議等により検討し自立支援を図りました。

### ④ 災害対応の体制整備

大規模災害の発生に準備、対応するため、災害ボランティアセンター設置・運営のスタッフを担う関係者と地域組織を対象に、災害ボランティアセンター研修会や鶴岡市総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練を行い、鶴岡市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルに基づいた行動について確認し、災害発生時に迅速に対応できるよう取り組みました。また、大雨災害により設置された秋田県秋田市の災害ボランティアセンターへの職員派遣やボランティア活動を行い災害に対する支援を図りました。

### ⑤ 地域における公益的な取組の実施

特別養護老人ホームを経営する9つの社会福祉法人による「社会福祉法人連携による公益的な取組連絡会」を開催し、令和5年度は、ひきこもりがちな方、コミュニケーションに不安のある方などへの社会参加に向けた支援として、交流や作業の場などの社会参加について各法人より作業メニューを検討し提供いただき、地域福祉ワーカーや相談支援機関の自立支援に活用したく提供機会のメニュー化に取り組みました。また、生活困窮世帯への支援を目的とした、連絡会参加法人合同によるフードドライブを実施し、年末の時期に、希望する世帯へ食料品を提供し生活支援を実施しました。

## ◇ 各福祉センターの地域福祉事業総括

### ・ 鶴岡福祉センター

学区・地区社会福祉協議会等が策定する、小地域ごとの福祉活動を示す計画「地域支え合いプラン」の進行管理・評価について、令和5年度は中間年となることから、学区地区を4エリアに分け、学区・地区社協等の地域福祉推進基礎組織と、各地域支え合いプランの推進状況の情報交換会を実施し、プランの進捗状況、方向性を確認し合いました。また、地域ケア推進担当として、学区・地区社協等の事業、ネットワーク会議等へ積極的に参加するなど、地域の生活課題に対応する住民主体活動に対し支援を図りました。

重層的支援体制の機能である多機関協働事業を令和4年度に引き続き鶴岡市の委託により実施し、令和5年度はモデル的に取り組む地域包括支援センターエリアを3エリアから7エリア(鶴岡地域・櫛引地域)に拡大し取り組み、鶴岡市における包括的支援体制について移行準備期間中(3年間)の整備に向け鶴岡市担当部署と協議しました。

## ・藤島福祉センター

令和5年度も「藤島地域支え合いプラン」<sup>4</sup>の3つの重点目標に基づき各種事業を実施しました。地域の特色ある福祉活動として「農福連携プロジェクト」を庄内農業高等学校と一緒に取り組み、高齢者の生きがいづくりを進めました。相談業務では民生委員・児童委員、藤島庁舎市民福祉課、地域包括支援センター、障害者相談支援センターのほか弁護士や病院相談員、学校など他機関とのチームアプローチを行いました。また、福祉教育については外部講師を依頼し「経済とは何か」と題して小学校2校の6年生を対象に行いました。

### <地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	・令和5年度藤島福祉センターの事業概要について ・第2次藤島地域支え合いプランの進捗状況について
第2回	・令和5年度中間総括について ・第2次藤島地域支え合いプランの進捗状況について ・来年度以降の福祉センターの体制について

### <広報おだがいさま地域版発行状況>

・第55号（7月1日発行）・第56号（10月1日発行）・第57号（3月1日発行）

## ・羽黒福祉センター

令和5年度も第2次「羽黒おもいやりプラン」<sup>5</sup>の3つの活動目標に基づき各種事業を実施しました。平成31（令和元）年度から開設している気軽に立ち寄れる場としての「いっぷくどうぞ」は、従来の福祉センターの取組のみならず一部の地域活動センターでも自主的に取組が始まる等活動の輪が広がっています。自殺予防対策として取り組んでいる、こころの健康づくりのつどいでは、令和5年度は羽黒第四地区地域活動センターを会場に開催し、また、住民組織の代表や羽黒庁舎等と連携し「羽黒地域こころの健康づくり応援団」による出前講座を4か所で実施しました。また、令和3年度から取り組んだグラウンドゴルフ大会については、令和5年度は41名の方から参加していただきました。

### <地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	・令和5年度羽黒福祉センターの事業概要について ・第2次羽黒地域支え合いプランの具体的な取組について
第2回	・令和5年度羽黒福祉センターの中間総括について ・第2次羽黒地域支え合いプランの進捗状況について ・令和6年度からの福祉センター体制の見直しについて

<sup>4</sup> 「藤島地域支え合いプラン」：P. 218

<sup>5</sup> 「羽黒おもいやりプラン」：P. 219

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第42号(9月1日発行)・第43号(3月1日発行)

### ・櫛引福祉センター

第2次「くしびき ささえ愛プラン」<sup>6</sup>の重点目標に基づき、各種事業を実施し、新たに住民が気軽に集まり相談できる場として、櫛引地区関係事業所の福祉専門職も定期的に参加する認知症カフェを立ち上げました。また、通いの場の支援として「櫛引体操DVD」を作成し、百歳体操実施団体及びサロン代表へ配布し、住民主体活動への一助としました。相談支援では、令和3年度から「ひきこもり相談会」を継続して実施したことにより、関係機関との連携が円滑となり、定期的な支援会議とともに、チームアプローチによる支援と丁寧な進捗報告を心掛け、医療機関や区長、民生委員・児童委員等の関係機関との連携強化を図りました。小中学校を対象にしたサマーチャレンジでは、手話体験やケーブルテレビでのニュース編集・キャスター体験、青色駐車場整備を行いました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	・令和5年度櫛引福祉センター事業概要について ・地域支え合いプランの推進に向けた取組について ①第2次櫛引地域支え合いプラン進行について ②地域包括支援センターくしびきより 「通いの場」についての報告
第2回	・令和5年度櫛引福祉センターの中間総括について ・保育園統合について
第3回	・令和5年度総括について ・令和6年度福祉センターの職員体制について

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第51号(10月1日発行)・第52号(3月1日発行)

### ・朝日福祉センター

令和5年度も第2次「朝日地域支え合いプラン」<sup>7</sup>の活動目標「つどい」「見守り」「生活支援」に基づき各種事業を実施しました。「あさひ家族安心カード」の様式を見直し、自治振興会や自治会、民生委員・児童委員を通じて全世帯に配布し、安心して暮らせるまちづくり・みんなで助け合えるまちづくりの一助としました。また、福祉有償移送サービス事業や地域ぐるみの配食事業等の実施により、自治組織では対応しきれない生活課題を受け止め、支えていく社会資源として事業展開を図りました。さらに、朝日地域を担当する相談支援機関等のネットワーク会議を定期開催し、支援困難世帯の情報共有とチームアプローチの検

<sup>6</sup> 「くしびき ささえ愛プラン」：P. 220

<sup>7</sup> 「朝日地域支え合いプラン」：P. 221

討を行い、支援困難世帯が居住する自治会で「見守り情報交換会」を開催し自治会役員、民生委員・児童委員、駐在所、消防職員なども含めたサポートネットワークの構築に努めました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あさひ家族安心カード設置事業について</li> <li>・福祉有償移送サービス事業について</li> <li>・地域支え合いプラン進行管理シートについて</li> </ul>
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あさひ家族安心カード設置事業について</li> <li>・福祉有償移送サービス事業について</li> <li>・あさひ小福祉学習について</li> <li>・令和4年度地域支え合いプラン進捗状況について</li> </ul>
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度朝日福祉センター事業報告（中間総括）</li> <li>・令和6年度福祉センター職員体制について</li> </ul>

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第17号（12月1日発行）・第18号（3月1日発行）

・**温海福祉センター**

第2次「温海ささえあいプラン」<sup>8</sup>に基づき各種事業を実施し、住民主体の支え合い活動として検討していました、山戸地区の有志が主体となつての支え合い活動が、令和5年度に「結の会」として活動開始に至りました。また、他地域での住民主体の活動を推進するため、地域福祉委員会等で情報提供や、助成金を活用し活動へつながるよう周知し支援を図りました。3者連携（温海庁舎市民福祉課・地域包括支援センターあつみ・温海福祉センター）では、高齢者のみであった課題共有から、若年層を加え対象を広げ、個人から世帯として包括的に支援する体制を構築しました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温海福祉センター事業概要について</li> <li>・各団体からプランへの取組状況、情報提供等</li> <li>※支え合い「結の会」設立及び活動について</li> </ul>
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温海福祉センター事業中間総括の報告</li> <li>・各委員から取組状況、情報提供</li> <li>・令和6年度からの福祉センター体制の見直しについて</li> </ul>

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第31号（10月1日発行）　・第32号（3月1日発行）

<sup>8</sup> 温海ささえあいプラン：P.222

### (3) 地域福祉関連事業

#### ① 福祉コミュニティづくり事業（鶴岡地域）

鶴岡地域の地域福祉推進拠点である学区・地区社協等に対し運営費を助成するとともに、学区・地区社協連絡委員会事務局として会議及び福祉協力員活動に関する研修会を開催し、各学区・地区社協等の情報交換により活動の活性化を図りました。

・助成金交付実績

(単位：円)

No.	学区・地区社協名	助成金額	No.	学区・地区社協名	助成金額
1	第一学区コミュニティ振興会	320,000	8	斎地区社会福祉協議会	260,000
2	第二学区コミュニティ振興会		9	黄金地区社会福祉協議会	
3	第三学区社会福祉協議会		10	湯田川地区社会福祉協議会	
4	第四学区コミュニティ振興会		11	大泉地区社会福祉協議会	
5	第五学区社会福祉協議会		12	京田地区社会福祉協議会	
6	第六学区コミュニティネットワーク		13	栄地区社会福祉協議会	
7	大山社会福祉協議会		14	田川地区社会福祉協議会	
			15	上郷地区社会福祉協議会	
			16	三瀬地区福祉のまちづくり協議会	
			17	由良社会福祉協議会	
			18	小堅地区社会福祉協議会	
			19	加茂地区社会福祉協議会	
			20	湯野浜地区社会福祉協議会	
			21	西郷地区社会福祉協議会	

・鶴岡市学区・地区社会福祉協議会連絡委員会各種会議・研修会

会議・研修名	期 日	主な内容	参加者
幹事会	4月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡委員会への報告、提案事項について</li> <li>・役員を選出について</li> <li>・共同募金配分事業について</li> </ul>	15人
連絡委員会	5月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度事業報告及び収支決算について</li> <li>・令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）について</li> <li>・役員を選出について</li> <li>・共同募金配分事業について</li> </ul>	21人
情報交換会	7月7日	・地域支え合いプランについて（第1～第6学区）	23人
情報交換会	9月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支え合いプランについて（斎、黄金、湯田川、大泉、田川地区）</li> </ul>	16人
情報交換会	10月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支え合いプランについて（三瀬、小堅、由良、加茂、湯野浜地区）</li> </ul>	19人

情報交換会	11月24日	・地域支え合いプランについて (京田、栄、上郷、大山、西郷地区)	15人
-------	--------	-------------------------------------	-----

## ② おだがいさまのまちづくり事業

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていくための取組として、地域のサロン活動やボランティア活動への支援、更に、地域福祉推進組織と地域関係団体等との地域ケアネットワーク会議等を開催し、地域におけるネットワークづくりを進め、住民主体による見守り・支え合い活動の活性化を図りました。

### a 福祉活動助成支援

- ・おだがいさまのまちづくり事業助成金交付（鶴岡地域）

学区・地区社協等が地域支え合いプランに基づいた福祉活動の取組ができるよう助成金の交付と地区担当職員による活動支援を行いました。

<活動の実施状況>

(単位:円)

団体名	活動内容	助成金額
第六学区コミュニティネットワーク	子どもから高齢者まで集まる居場所活用	100,000
京田地区社会福祉協議会	助け合い安心して暮らせる支援活動	100,000
上郷地区社会福祉協議会	上郷地区こどもあんぜんマップ作成及び見守り活動	100,000
小堅地区社会福祉協議会	防災福祉マップ・安心カード・鍵預かり事業の更なる細分化と要援護者や要支援者への体制強化	100,000
湯野浜地区社会福祉協議会	湯野浜社会参加促進事業	100,000
大山社会福祉協議会	「大山地区除雪サポート隊」による要支援者サポート事業	100,000
西郷地区社会福祉協議会	西郷地区健康づくり事業	74,000

※令和5年度 7事業 令和4年度 11事業

<ふくし座談会の実施> ・令和5年度は30件申請、うち9件実施

・令和4年度は38件申請、うち12件実施

- ・お茶のみサロン活動助成金交付（鶴岡地域）

鶴岡地域において、町内会・自治会等一定の区域を範囲として地域住民が主体となって取り組むサロン活動に対し、その活動費の一部を助成し地域の見守り活動への支援を図りました。

<助成件数> ・令和5年度 80件 ・平成4年度 94件

- ・各種活動助成事業（藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域）

町内会、集落等の自治組織、住民団体等が行う各種活動において、福祉課題の把握や地域ニーズに対応した小地域活動を支援し、住民主体の地域福祉活動の充実を図りました。

<実施状況>

(単位：箇所数)

福祉センター	サロン活動		住民福祉座談会等		ボランティア活動		人材育成		福祉研修・講座		地域福祉サービス等	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5
藤島	21	23	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
羽黒	6	7	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0
櫛引	6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝日	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
温海	0	1	5	4	0	0	0	0	0	1	0	1

## b 小地域福祉活動支援

第3次鶴岡市地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」の4つの基本的視点「気づきあい・つながりあい・支えあい・認めあい」に基づき、小地域福祉活動の推進を支援し、また、一人暮らし高齢者などの緊急時に備える安心カードの設置を消防本部との連携により支援しました。

<実施状況>

福祉センター	事業内容
鶴岡	① 地域支え合いプランの取組推進の支援 ② 安心カード設置活動 学区・地区社協等が民生委員・児童委員や町内会長などと連携し4,742世帯に「安心カード」を設置。消防本部へ4,426世帯分の設置者名簿を提出。希望する世帯へ「安心カードステッカー」を配布。
藤島	① ふじしま安心カードの設置：世帯数219 登録者数248人 町内会、民生委員・児童委員及び地域包括支援センターふじしまの協力により実施。
羽黒	① 緊急連絡カードの設置：設置数356世帯521人 民生委員・児童委員の協力により実施。
櫛引	① 支え合いネット活動：各地区の支え合いの仕組み推進のため、住民座談会の開催 ② 安心カードの設置数：642世帯964人。保健福祉推進員、区長、民生委員・児童委員の協力により実施。
朝日	① 朝日地域おだがいさまネット活動推進事業 中央地区自治振興会「おだがいさま除雪支援ネット」 要支援者22人、サポーター12人、支援回数171回 ② あさひ家族安心カード設置事業：カード設置数1,063世帯 自治振興会との協働で、自治会、民生児童委員協議会、地域包



	括支援センター等からの協力も得ながら実施。 ③ 家族安心カード設置事業推進会議:2回 自治振興会、民生児童委員協議会、地域包括支援センター、庁舎関係課とカードの情報更新を促す取組等について検討。
温 海	① 福祉連絡カードの設置 一人暮らし高齢者 476 世帯、二人暮らし高齢者 400 世帯、高齢者のみ世帯 88 世帯 民生委員・児童委員の協力により実施。

### c 人にやさしいまちづくり事業

#### 【鶴岡福祉センター（ボランティアセンター）】

外出や通院時の歩行が困難な状況にあり、公的なサービス利用ができずにいる方の社会参加支援として、また、学校や地域で行われる福祉教育や福祉体験事業等に対して車イス貸出し事業を実施しました。

活動内容	件数
車イス貸出し（9 台整備）	52 件

#### 【藤島福祉センター】

子育て世帯への支援を目的としたチャイルドシートの貸出しや、地域活動を支援するための遊具等の貸出しを行いました。

活動内容	件数
チャイルドシート貸出し（16 台）	39 件
輪投げ等遊具貸出し（6 セット）	17 件
擬似体験セット貸出し（3 セット）	0 件
車イス貸出し（1 台整備）	3 件

#### 【羽黒福祉センター】

高齢者・障がい者・子育て世帯等が、地域の中で安心して暮らすことができる環境づくりや生活支援のための事業を実施しました。また、自殺予防対策として、「羽黒地域こころの健康づくり応援団」の活動支援や講演会を開催しました。

活動内容	件数等
障がい者用駐車場(青色駐車場)の整備	1 ヲ所
チャイルドシート貸出し(45 台)	35 件
車イス貸出し（4 台整備）	20 件
こころの健康づくり講演会の開催	42 人
こころの健康づくり出前講座	4 回

【櫛引福祉センター】

子育てサポーター（10名）による保育園・小学校でのボランティア活動を月2回「もの作り」活動を実施し、保育園には牛乳パックで作ったイスの贈呈、小学校では黒川能衣装の陰干し・収納を行いました。

活動内容	件数等
子育てサポーター研修・活動	33回
チャイルドシート貸出し（91台）	178件
車イス貸出し（6台整備）	16件
遊具の貸出し	60件

【朝日福祉センター】

チャイルドシートの貸出しは、子育て世帯への支援として、また、輪投げ等の遊具の貸出しは高齢者の生きがいつくり等に活用されました。

活動内容	件数
チャイルドシート貸出し（15台）	15件
輪投げ等の遊具の貸出し	48件

【温海福祉センター】

子育て支援としてのチャイルドシートの貸出し及び、ジュニアシートの貸出しを行い、外出支援として車イスを貸出しました。

活動内容	件数
チャイルドシート（9台） ジュニアシートの貸出し（2台）整備	17件
車イス貸出し（4台整備）	15件

d 福祉関係団体等助成

福祉関係団体等への運営費助成及び活動助成金を交付し、活動支援を図りました。

<福祉団体等への活動助成の状況>

地 域	R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	団体数	助成金額 (円)	団体数	助成金額 (円)	団体数	助成金額 (円)
鶴 岡	10	633,000	9	548,000	8	474,000
藤 島	7	305,000	7	305,000	8	315,000
羽 黒	5	240,000	5	240,000	5	240,000
櫛 引	4	118,000	4	118,000	4	118,000
朝 日	3	268,000	3	240,000	3	238,000
温 海	5	345,000	5	310,000	4	290,000
合 計	34	1,909,000	33	1,761,000	32	1,675,000

地 域	助 成 団 体
鶴 岡	老人クラブ、身体障害者福祉協会、民生児童委員協議会、手をつなぐ親の会、遺族会、保護司会、民間保育園協議会、学区・地区社会福祉協議会連絡委員会
藤 島	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会連合会、児童健全育成町民会議(5地区)
羽 黒	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、手をつなぐ育成会、赤十字奉仕団、しゃべってほっとの会
櫛 引	老人クラブ、身体障害者福祉協会、婦人会、遺族会
朝 日	老人クラブ、身体障害者福祉協会、民生児童委員協議会
温 海	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会連合会、手をつなぐ育成会

#### e 仲間づくり交流事業（藤島・羽黒・櫛引）

町内会、集落等で開催されるお茶のみサロン等への活動支援や高齢者等を対象とした介護予防や健康増進、仲間づくりを目的とした講座等を地域の各種関係団体、専門機関との連携により実施し、地域住民の閉じこもり防止や生きがいがづくりに取り組みました。

##### 【藤島福祉センター】

健康寿命の増進と運動を通じた高齢者の生きがいがづくりや仲間づくりを目的として、令和5年度は「いきいき健康づくり教室」を毎週金曜日に8回を1コースとして、藤島老人福祉センターを会場に実施しました。

##### 【羽黒福祉センター】

集落等が実施するお茶のみサロン活動等に対して、羽黒庁舎市民福祉課や地域包括支援センターと連携し、健康増進や認知症予防等の事業企画や実施、また、自由参加型サロン「ハッピー広場」の実施へ支援を行いました。

##### 【櫛引福祉センター】

櫛引地域の介護保険事業所と鶴岡市社協の事業所（デイサービス・居宅介護支援・訪問介護・地域包括支援センター・福祉センター）の協働により、通いの場等に出向いての活動支援として「ふれあい福祉講座」を年12回実施し、165名が参加しました。

### ③ 会食・配食・交流事業

一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や食の楽しみ、社会参加を進めることを目的に、鶴岡地域では学区・地区社協等の主催、朝日地域、温海地域においてはボランティア団体等の協働により、食事を伴う交流及び見守り事業等を支援しました。

【鶴岡福祉センター】

学区・地区社会福祉協議会等の地域福祉推進組織が実施主体となり、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類への移行を受け、中止していた会食を再開する傾向がありましたが、これまで同様感染症の感染予防に努めながら、会場に集い交流を図りつつ実施しました。

<実施状況>

学区・地区名	実施回数 (回)	会食者数 (人)	配食者数 (人)
第一学区	13	416	99
第二学区	10	230	23
第三学区	12	279	74
第四学区	10	300	0
第五学区	10	248	162
第六学区	12	277	119
斎地区	2	0	83
黄金地区	2	0	47
湯田川地区	8	13	349
大泉地区	10	0	191
京田地区	14	70	105
栄地区	7	0	81
田川地区	10	83	0
上郷地区	5	55	12
三瀬地区	12	0	404
由良地区	6	143	76
加茂地区	5	0	534
湯野浜地区	3	124	39
大山地区	10	263	0
西郷地区	2	0	57
合 計	163	2,501	2,455

【朝日福祉センター】

食事の支度や食材の買い出しに苦勞している方等の自宅へ週 1 回「にこにこ弁当」をお届けしました。事業周知は自治振興会や民生委員・児童委員等、弁当づくりは地元商店(6 店)、スイーツづくりは食生活改善推進協議会、配達はボランティア団体「ほほえみ桜の会」が担うなど、様々な団体・機関等と連携しながら事業を実施しました。

<実施状況>

回数 (回)	配食者数 (人)
39	1,543

【温海福祉センター】

ボランティア（あたたかグループ）が調理した「あったか弁当」を、75歳以上の一人暮らし高齢者等の自宅へ配食を行いました。弁当の掛け紙の絵やメッセージは地元の小学生の協力により作成しました。

＜実施状況＞

回数（回）	配食者数（人）
11	1,334

④ 福祉有償移送サービス事業

バスやタクシーなどの公共交通機関を利用することが難しい高齢の方や障がいのある方の移動支援事業を福祉車両により行いました。また、運転者を対象とした安全運転講習を計3回実施し、安全・安心な運転方法などの基礎的な知識・技術を確認する機会をつくりました。

＜事業実績＞

（単位：登録数→人、運行回数→回）

年度	鶴岡		朝日		温海		合計	
	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数
R3	84	1,609	24	149	79	211	187	1,969
R4	74	1,273	30	264	68	220	172	1,757
R5	71	1,093	33	647	73	165	177	1,905

※ 藤島・羽黒・櫛引地域在住の方は、鶴岡・朝日・温海いずれかの福祉センターで対応。

※ 登録数、運行回数はR6.3月末現在のもの。

⑤ ボランティア活動推進事業

◇鶴岡市ボランティアセンターの運営

＜ボランティアセンター来所者数＞

年度	合計	来所の主な目的
R3	1,020人	ボランティア活動希望・依頼・登録等の相談、ボランティア保険相談・申請、福祉学習相談、情報提供、研修等協力依頼、その他ボランティア関係相談全般等
R4	1,059人	
R5	1,252人	

＜ボランティア登録状況＞

年度	個人	団体	主な分野
R3	52人	68団体	読み聞かせ、昔語り、福祉施設での活動、生活支援（傾聴含む）、学生・若者の活動、障がい者支援、子ども支援（学習支援・子ども食堂含）、災害支援、人材養成、環境美化、健康増進、外国人サポート、国際、演芸、まちづくり等
R4	52人	65団体	
R5	22人	58団体	

< ボランティアセンター相談件数（電話・来所） >

（単位：件）

年度	活動依頼								活動希望 (計)	その他の相談対応						合計
	高齢	障がい	子育て	環境	地域	イベント	その他	小計		ボラ保険	講座・助成金・福祉学習・出前	物品等貸出	寄付・収集	災害(平時含)	その他	
R3	4	3	3	1	1	6	13	31	44	199	134	74	150	31	231	894
R4	9	12	3	5	5	4	12	50	132	275	149	123	167	71	350	1,317
R5	14	7	3	3	5	2	8	42	71	265	129	156	146	125	308	1,242

### ◇ ボランティア活動を促進する取組等

#### ・交流・研修会の実施

「鶴岡まちなかキネマ」が再生オープンし、映画館・NPO・商店街・鶴岡市社協が連携して「山王キネまち大学 2023」を実施し、ボランティアセンターが担当したコラボ事業を 8 回行いました。また、ボランティア活動に取り組む学生を対象にした交流会を実施しました。

< 実施内容①（山王キネまち大学 2023 との共催） >

月	事業名	内容（映画上映は省略）	場所	参加人数
7月	映画と福祉のコラボ(1) 「ケイコ目を澄ませて」	「手話で会話をしてみよう体験」 講師	鶴岡まちなかキネマ 3	20 人
	映画と福祉のコラボ(2) 「こころの通訳者たち」	映画出演者等のトークショー (視覚障がい当事者等)	〃	20 人
		監督等トークショーとピアノ演奏会 (鶴岡在住視覚障がい当事者)	〃	40 人
8月	映画と福祉のコラボ(3) 「30 (さんまる)」	監督トークショー① (市内福祉関係者公開研修会として)	〃	75 人
		監督トークショー②	〃	22 人
11月	映画と福祉のコラボ(4) 「僕が君の耳になる」	主演俳優等のトークショー (運営に高校生が協力)	鶴岡まちなかキネマ 3	82 人
12月	映画と福祉のコラボ(5) 「オレンジランプ」	トークショー 映画監督、認知症の人や家族と 関わる認定看護師・ボランティ ア団体メンバー ビデオメッセージ 映画主役のモデルになった方	〃	69 人
2月	映画と福祉のコラボ(6) 「こんな夜更けに バナナかよ」	トークショー 難病の人、障がいがある人への 活動を行っている学生 3 人 ビデオ上映 難病患者を支援するバンド、 同バンドのミュージックビデオ	鶴岡まちなかキネマ 3	22 人

3月	映画と福祉のコラボ(7) 「星に語りて ～Starry Sky～」	災害ボランティアセンター研修会 演題 能登半島地震被災地の状況 と災害要配慮者の現状 講師 ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原公彦氏	鶴岡まちな かキネマ4	35人
	映画と福祉のコラボ(8) 「サイレントラブ」	シアターコンサート 視覚障がいがある青年(ピアノ) ジャズサクソ奏者(サクソ) のコラボ演奏 トークイベント 演奏者2人とカフェ店主等	鶴岡まちな かキネマ3	31人

<実施内容②(独自事業)>

月	事業名	内容(映画上映は省略)	場所	参加人数
11月	高校生等と映画主演俳優 との交流 ※障がい者支援ボラン ティア講座と連携	映画「僕が君の耳になる」主演 俳優(聴覚障がい者)と高校生・ 市内ダンスサークルのダンスワー クショップ・交流	鶴岡市社協 本部事務局 会議室	30人
2月	高校生等ボランティア 交流会 in 鶴岡 2023 ※市教育委員会共催 ※障がい者支援ボラン ティア講座と連携	ボランティア活動紹介(7団体) 障がいを理解する出前講座 「知的、発達障がいを理解する 疑似体験」 講師 庄内花笠ほーぷ隊	第三学区コ ミュニティ センター 大ホール	30名

・企業等と連携した活動

企業等から地域貢献活動に関する相談があり、災害ボランティア、生活困窮やこども食堂等への支援につながる活動の調整を行いました。

<実施内容>

相談件数	実施件数	延人数	主な内容
6	4	25人	相談6: 災害ボランティア2、フードドライブ3 こども食堂支援1 実施4: 災害ボランティア1、フードドライブ2、 こども食堂支援1

・ボランティア団体助成事業

ボランティア団体の活動を支援し、地域福祉力向上を図るため6団体へ助成金(計98,000円)を交付しました。

<交付団体数(分野別)>

(単位: 件)

年度	芸能	読み聞かせ	昔語り	学生若者	高齢者支援	障がい者支援	子ども子育て	その他	計
R3	0	1	0	1	0	1	3	2	8
R4	1	1	0	2	0	1	1	1	7
R5	0	0	0	1	0	2	2	1	6

<交付団体名>

- ・鶴岡バイオリンサークル ・百凜花 ・結美の会 ・手話サークルごてんまり
- ・Kickin 'DanceFam ・高校生ボランティアサークル「かだんこの会」

#### ◇ 災害に関する取組

##### ・災害ボランティアセンター設置・運営訓練

鶴岡市総合防災訓練において、災害ボランティアセンター設置・運営訓練を、行政や関係団体、開催地地域住民等の協力により実施しました。

<実施状況>

月	内容	参加者	開催地	参加人数
10月	・災害ボラセン1日の流れの対応訓練	・スタッフ役 鶴岡青年会議所、市社協職員 ・ボランティア役 NPO法人、斎地区住民、市職員	斎地区	33人

##### ・災害に関する研修会

「災害ボランティアセンター研修会」を実施し、また、NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワークが「山王キネまち大学2023」事業として実施した災害研修会に協力しました。

<実施状況>

月	事業名	内容	場所	参加人数
11月	災害研修会 映画「風に立つ愛子さん」  ※NPO法人主催	映画と災害トークショー① ・東日本大震災で、石巻市湊地区の避難者を追ったドキュメンタリー映画 ・監督、湊地区で活動した鶴岡市民2人のトークショー	鶴岡まちなかキネマ4	45人
		映画と災害トークショー②（映画は①同作） ・監督、湊地区で活動した鶴岡市民と 県内災害支援団体各2人のトークショー		10人
3月	災害ボランティアセンター研修会	災害と福祉テーマの映画 「星に語りて ～Starry Sky～」 講演 「能登半島地震被災地の状況と災害要配慮者の現状」 講師 ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原公彦氏 ※映画と福祉コラボ⑦として実施	〃	35人



## ◇ 各福祉センターの主な取組

<実施状況>

	内 容
ボランティアセンター (鶴岡福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動) 45回、延べ 393人参加</li> <li>・ 市民憲章推進第 57 回全国大会鶴岡大会でボランティア活動紹介 (ボラセン登録団体 28 団体がパネル作成・展示：荘銀タクト)</li> <li>・ こども食堂活動への支援 (連携こども食堂実施 6 団体) (1) ボランティア調整 16 件、延 49 人 (1 団体) (2) 食材提供調整 提供 11 回、調整 12 回 (米、果物、菓子等) (3) コンビニと連携事業 1 回 (1 団体) こども店長等</li> </ul>
藤島福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動) 延べ 82 人参加</li> </ul>
羽黒福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア活動支援(傾聴ボラ シャベってほっとの会)</li> <li>・ サマーチャレンジ 「点字体験」 8 人参加、「青色駐車場整備」 2 人参加</li> </ul>
櫛引福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サマーチャレンジ in くしびき 「宿題+手話体験」「宿題+ケーブルテレビ体験」「青色駐車場整備」 延べ 34 人参加</li> <li>・ ボランティア活動支援 (子育てサポーター)</li> <li>・ カーブミラー清掃 延べ 71 名参加</li> </ul>
朝日福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ぐるみの配食事業にボランティア団体「ほほえみ桜の会」が弁当配達で、食生活改善推進協議会朝日地域がスイーツづくりで参加・協力 延べ 91 人参加</li> <li>・ ボランティア活動支援 (ほほえみ桜の会・さわやかなの会)</li> </ul>
温海福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年ボランティア育成講座 (鶴岡市教育委員会と共催)「木野俣集落について知り、一緒に考えよう！」 全 4 回開催 延べ 14 人参加</li> </ul>

## ◇ 福祉教育の推進

### ・福祉学習助成金交付状況

児童・生徒の「福祉のこころ」を育むため、小・中学校と連携した福祉学習、ボランティア体験学習に対して助成金を交付しました。

<実施状況>

年度	小学校	中学校	高等学校 (高専含)	特別支援 学校	計	
					学校数	金額
R3	14 校	2 校	4 校	1 校	21 校	559,200 円
R4	11 校	4 校	2 校	1 校	18 校	485,000 円
R5	12 校	3 校	4 校	1 校	20 校	533,000 円

※助成限度額 1 校当たり 30,000 円

## ・福祉学習サポーター活動

福祉学習等に協力するサポーター16人が登録し、小中学校等の依頼に対し、サポーターよりご協力をいただきながら福祉学習を実施しました。

<実施状況>

年度	回数	延べ人数	実施内訳（延べ回数）
R3	8回	11人	小学校5、中学校1、サマーチャレンジ2
R4	5回	14人	小学校3、中学校1、サマーチャレンジ1
R5	7回	14人	小学校5、中学校1、サマーチャレンジ1

## ・各福祉センターの主な取組

<福祉学習・ボランティア講座の実施状況>

	回数	参加延べ人数	内容・対象
鶴岡福祉センター	17回	954人	・福祉学習 小学校8、中学校3 ・出前講座 地域2、児童館1、高校1、他2
藤島福祉センター	2回	30人	福祉学習「経済とは何か」 小学校2校
羽黒福祉センター	4回	124人	・障がいや認知症に関する理解促進を図る学習 小学校1校、中学校1校
櫛引福祉センター	①12回 ②4回	①165人 ②60人	①ふれあい福祉講座 地域住民（サロン出前講座） ②高齢者疑似体験・車いす体験・障がいを理解する福祉学習 櫛引東小学校
朝日福祉センター	8回	148人	・福祉学習（地域で暮らす視覚障がい者の困りごとに気づき、考え、実践する課題解決型学習） 小学校1 ・地域福祉講座 地域1

## ⑥ 地域福祉運営事業

### ・鶴岡市社会福祉協議会表彰状の贈呈

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度～令和4年度と同様に福祉のつどいを中止としたため表彰状贈呈式を開催し、地域福祉活動などに功績顕著な1個人、7団体に対して表彰を行いました。

<鶴岡市社会福祉協議会表彰状贈呈式>

- ・期 日 令和5年11月14日(火)
- ・会 場 鶴岡市社会福祉協議会会議室
- ・受賞者 【表彰状】

八ツ興屋蕎麦打ちグループ(福祉団体)、山形県立加茂水産高等学校(福祉団体)、渡部佐一氏(社会福祉活動奉仕者)、鶴岡東高等学校奉仕部(福祉団体)、山形県立鶴岡中央高等学校ボランティア・インターアクト部(福祉団体)、

### 【感謝状】

鶴岡建設株式会社（寄付者）、真言宗豊山派仏教青年会（寄付者）、  
株式会社産直めぐり（寄付者）

※令和4年度 表彰状受賞者 個人 2名、団体 5名  
感謝状受賞者 個人 4名、団体 1名

### ・「鶴亀番付」の発行

数え年で100歳以上の長寿者をお祝いするとともに市民の励みとしてもらうことを目的に、敬老の日に合わせて鶴岡市と連携し「鶴亀番付」（相撲の番付風に長寿者を記載）を発行しました。

- ・発行部数 900部
- ・配布先 番付掲載者、公民館、学区・地区社協等、各福祉センター、高齢者福祉施設等

<番付掲載者数の状況>

年度	人数
R3	215人
R4	220人
R5	218人

### ⑦ 重層的支援体制整備事業への移行準備事業（鶴岡市委託事業）

重層的支援体制整備事業移行準備事業の必須事業である多機関協働事業について実施し、単独の支援機関では対応が難しい事例の多機関の調整役を担い、支援関係機関の役割分担や支援の方向性を定める等の取組を行いました。

- ・重層的支援会議等による検討件数 8件
- ・事業打ち合わせ及びケース検討会等 15回
- ・他機関協働事業に係る研修会 2回

### ⑧ コミュニティソーシャルワーク機能の充実

地域福祉課と各福祉センターの地区担当職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、コミュニティソーシャルワークの実践体制を構築し、個別ケースの相談対応及び、課題解決を図るため地域支援にも努めました。

<相談内容>

(単位:件)

相談内容	病気・健康・障がい	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金	債務	仕事探し・就職	地域との関係	家族関係	ひきこもり・不登校	D V	食べるものがない	虐待	介護
鶴岡	295	83	165	36	24	103	39	41	49	39	1	2	3	11
藤島	87	41	156	20	28	127	56	12	44	26	0	27	3	37
羽黒	108	8	66	1	5	2	21	2	10	23	0	22	3	10
櫛引	97	92	105	3	43	35	23	21	47	51	0	23	0	12
朝日	128	33	65	11	2	25	55	17	51	9	0	3	7	20
温海	120	57	101	11	12	64	69	17	68	22	0	23	11	21
合計	835	314	658	82	114	356	263	110	269	170	1	100	27	111

相談内容	教育資金	子育て	ゴミ屋敷	ペット	依存症	その他	合計
鶴岡	1	9	40	0	5	31	977
藤島	2	9	23	2	3	45	748
羽黒	0	7	1	4	1	25	319
櫛引	0	12	17	18	0	20	619
朝日	0	18	16	18	0	49	527
温海	0	1	2	2	0	134	735
合計	3	56	99	44	9	304	3,925

※相談内容のカウントは重複あり。

### ⑨ ふれあい福祉相談の開設

住民の福祉に関する相談に対して常設相談を開設し、電話等により受け付けた相談は担当地区の地域福祉ワーカー等につなげ対応しました。山形県弁護士会等の協力による無料法律相談は年14回開設し、相続や離婚など対人トラブルに係る相談に対し専門的な助言指導を行いました。

項 目		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R3	法律相談	70	8	8	8	7	6	107
R4	法律相談	84	8	4	2	5	8	111
R5	法律相談	63	7	8	6	6	8	98

※令和3年度は年14回、令和4年度は年16回開設。

※常設相談の件数は地域福祉ワーカーの相談件数と同数。

## ⑩ 社会福祉法人の公益的な取組の推進

連絡会参加法人職員の公益的取組に対する意識啓発を図ることを目的に、合同フードドライブ事業を通じた食糧支援、支援を要する方に対する社会参加支援のための活動メニューリスト作りについて協議を行いました。また、活動周知のため鶴岡市社協ホームページ上に連絡会参加法人の取組内容を掲載しました。

<社会福祉法人における公益的な取組にかかる連絡会>

会議名	開催月日	主な内容	参加者
第1回 連絡会	9月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益的取組の情報発信について</li> <li>・令和5年度の取組みについて (社会参加に向けた支援について、9法人合同フードドライブについて)</li> </ul>	22人
第2回 連絡会	3月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フードドライブの実施結果及び各法人からの意見について</li> <li>・支援対象者への参加支援に係る「活動メニューリスト」について</li> <li>・重層的支援体制整備事業との関連について</li> <li>・各法人の公益的取組みについて</li> </ul>	16人

## ⑪ 災害支援状況

大規模な災害発生時の災害ボランティアセンターの開設やボランティア活動について、山形県社会福祉協議会等の応援要請により被災地支援に努めました。

<令和5年7月14日からの大雨による災害>

市町村名	職員派遣			ボランティア活動		備 考
	日数	実人数	延人数	回数	延人数	
秋田県 秋田市	7	2	8	2	10	山形県社協からの応援要請 <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ボランティアセンター職員派遣 9/4～9/10</li> <li>・ボランティア活動 8/2、8/25</li> </ul> NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワーク、鶴岡市社協職員

## ⑫ 大震災等支援活動推進事業（山形県社協委託事業）

未曾有の東日本大震災から12年を迎えた令和5年度も、山形県社会福祉協議会の委託を受け避難者生活支援相談員1名を配置し支援活動を継続しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、電話による状況確認が主となりましたが、ほとんどの避難者の方々が、地域の一員として安定した生活状況であることを確認しました。

<避難者数の推移>

(単位：世帯/人)

年度	全体		福島県		宮城県	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
R3	33	91	26	71	7	20
R4	30	87	23	67	7	20
R5	28	85	22	66	6	19

※各年度末の世帯数及び人数

### ・避難者交流事業

避難者同士の交流事業については、避難後年数が経過したことや鶴岡市へ定住していることでの意識の変化により、交流に関するニーズがなく未実施となりました。

### ・訪問、相談活動

山形県の事業による全戸訪問を実施し、現況を把握するとともに、今後の生活に関する意向を確認しました。また、健康不安のある世帯や高齢者世帯には、山形県看護協会の協力のもと同行訪問を行い、健康相談をあわせて行いました。

<相談対応状況：方法>

(単位：件)

年度	訪問	電話	メール	来所	つながぎ	他	合計		
							避難者	支援者	計
R3	106	234	191	31	0	10	221	351	572
R4	140	223	138	39	1	15	227	329	556
R5	116	189	178	40	0	3	194	332	526

<相談対応状況：種別>

(単位：件)

年度	住まい	健康医療	子ども	高齢者	職業	金銭	他	合計		
								避難者	支援者	計
R3	23	214	82	119	57	0	413	524	384	908
R4	12	202	70	121	42	3	393	480	363	843
R5	7	216	69	115	52	3	375	422	415	837

連携先	福島県避難者支援課、山形県復興・避難者支援室、山形県社会福祉協議会、山形県看護協会、鶴岡市関係各課、やまがた避難者支援協働ネットワーク、ボランティア団体 等
-----	--

※合計欄には、避難者と支援者の合計数。＜相談対応状況：種別＞については重複あり。

・ 関係団体との連携

山形県看護協会と連携し、同行訪問時に避難者の方々の健康相談に対応しました。

**⑬ 就労体験受け入れ事業**

就労について相談された方に対し、鶴岡市社協の福祉施設で期間を限定して雇用し、働くための生活リズムを整え、継続就労に向けた働く機会の場の提供に努めました。

＜実施状況＞

(単位：人)

年度	体験者数	一般就労への移行者数
R3	1	0
R4	1	0
R5	0	0

**⑭ 福祉バス運行事業（鶴岡市委託事業）**

福祉関係団体やボランティア団体等の地域福祉推進を目的とした研修や社会参加活動に対し、福祉バス運行による支援を行いました。

※運行台数：鶴岡地域 2 台、藤島地域 1 台

＜実施状況＞

年度	鶴岡			藤島		
	運行日数	運行回数	延べ利用人	運行日数	運行回数	延べ利用人
R3	92 日	129 回	1,544 人	13 日	13 回	139 人
R4	151 日	204 回	3,001 人	22 日	22 回	301 人
R5	160 日	239 回	3,668 人	22 日	22 回	306 人

※運行台数：鶴岡地域 2 台、藤島地域 1 台

### ⑮ 老人福祉センターの運営事業

高齢者に対して健康の増進、教養の向上、生きがいの増進及びレクリエーションなど気軽に利用できる場として運営し、社会参加の促進を図りました。

<開設・利用状況>

(単位：人)

年度	鶴岡		藤島		羽黒		櫛引	
	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数
R3	202 日	8,485	40 日	344	94 日	927	179 日	2,754
R4	242 日	9,763	52 日	460	143 日	1,427	215 日	3,190
R5	243 日	9,850	49 日	439	137 日	1,647	243 日	4,446

### (4) 共同募金配分金事業

#### ① 募金運動

全福祉センター一律に、赤い羽根募金と歳末たすけあい募金合わせて戸別募金 500 円を目安に募金運動を展開し、住民の方々から多くのご協力をいただきました。

<募金実績>

(単位：円)

年度	戸別募金	学校募金	法人募金	その他募金	合計
R3	16,202,350	555,957	921,000	1,799,581	19,478,888
R4	15,887,264	471,968	891,000	1,753,260	19,003,492
R5	15,734,036	460,068	879,200	1,666,824	18,740,128

#### ② 配分

赤い羽根募金（令和 5 年度分）については、市内の 21 の事業所等に配分決定され、令和 6 年度の地域福祉活動等に配分金が活用されます。歳末たすけあい募金については、経済的に支援が必要な世帯、児童養護施設入所者に義援金としてお渡ししました。

<福祉施設・団体への配分>

配分事業	R5 年度		R4 年度	
	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)
地域福祉・在宅福祉事業	6	1,387,000	8	1,730,000
「福祉の心」推進事業	1	50,000	1	50,000
障がい者就労支援事業	2	200,000	1	100,000
民営学童保育所支援事業	11	1,072,000	6	562,000
福祉車両整備事業	0	0	2	2,875,000
子ども食堂等運営支援事業	1	100,000	0	0
合計	21	2,809,000	18	5,317,000



<地域福祉活動推進のため鶴岡市社会福祉協議会へ配分>

(単位：円)

配分事業	R5年度	R4年度
ボランティア活動推進事業	1,238,128	1,111,492
地域支え合い体制推進事業	4,593,000	4,589,000
広報誌発行事業	1,500,000	1,500,000
合計	7,331,128	7,200,492

<歳末たすけあい募金配分>

区分	世帯員数	R5年度		R4年度	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
経済的に支援を必要とする世帯	1人	210	1,260,000	227	1,362,000
	2人	92	736,000	90	720,000
	3人	55	550,000	62	620,000
	4人	37	444,000	35	420,000
	5人以上	30	450,000	32	480,000
	小計	424	3,440,000	446	3,602,000
児童養護施設入所児童・生徒		15	265,000	18	375,000
災害による被災・避難世帯		0	0	7	90,000
募金運動に関わる事務費経費		—	111,000	—	122,000
合計		439	3,816,000	471	4,189,000

(5) 地域福祉活動計画及び地域支え合いプラン

・第3次鶴岡市地域福祉活動計画の推進及び進行管理

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（計画期間：令和3年度～令和7年度）の実施3年目として地域福祉推進組織及び関係機関等と連携し計画の実施を図りました。また、進行管理は単年度ごとに実施することとし、令和4年度と同様に、地域福祉課主体により進行管理シートを活用しながら、社協内地域福祉事業部署、生活支援事業部署、相談支援事業部署と共に、事業の進捗状況や今後の方向性を確認しました。

・地域支え合いプランの推進

【鶴岡福祉センター】

21 学区・地区社会福祉協議会等が主体となり策定された小地域の地域福祉活動計画「地域支え合いプラン」を推進するため、令和5年度は計画期間の中間年となることから、学区・地区を4つのエリアに分け、計画内容や進捗状況についての情報交換会をエリアごとに開催し、今後の計画に基づいた事業展開の一助といたしました。また、計画の進行管理については「地域支え合いプラン進行管理・評価シート」により事業の取組状況等を確認し、単年度ごとの目標や進行状況を関係組織と共有し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる

住民主体の地域づくり活動を支援しました。

#### 【藤島福祉センター】「藤島地域支え合いプラン」

令和3年度からの第2次「藤島地域支え合いプラン」に基づき、地域の実情に応じた地域課題の解決に向けた取組について、行政や各団体と相互に連携しながら推進しました。地域の特色として取り組んでいる農福連携プロジェクト事業については、地元の高校である庄内農業高等学校から全面的な協力をいただき事業を行い、農作業を通じた地域の方々と高校生との交流が図られました。また、いきいき健康づくり教室を老人福祉センターで開催し、参加者の健康づくりと仲間づくりを図りました。

#### 【羽黒福祉センター】「羽黒おもいやりプラン」

令和3年度からの第2次「羽黒おもいやりプラン」に基づき、地域課題の解決に向けた取組について、行政や各団体と相互に連携しながら推進しました。地域の特徴的な事業である「いっぷくどうぞ」では福祉センターの取組のみならず、自治振興会事業として取り組むなど地域の「交流の場」として広がりました。また、自治振興会と協力をしながらミニサマーチャレンジを実施するなど、地域福祉委員会等において、具体的な進め方などを話し合いながら、自治振興会や行政と連携し地域課題に取り組みました。

#### 【櫛引福祉センター】「くしびき ささえ愛プラン」

地域の拠点として、来館者・座談会・サロン等で地区の課題や疑問解消に向けた資料提供や情報発信を行うことで気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めました。座談会では各地区の状況をテーマ別の進行シートにまとめ、進行や記録・アンケート・分析等に協力しました。通いの場については、全体交流会や櫛引体操DVD作成を行いました。さらに、関係事業所と連携した認知症カフェを年4回開催し、延べ90名の参加がありました。

#### 【朝日福祉センター】「朝日地域支え合いプラン」

地域福祉委員会や地域支援ネットワーク会議において、進行管理シート等を活用しながら第2次朝日地域支え合いプランの進捗状況や取組を展開する上での課題、必要な支援などについて協議しました。また、以前から対象者拡大を望む声が多かった「安心カード」について、各地区の自治振興会や民生児童委員協議会等と協議を重ね、「あさひ家族安心カード」に刷新し全世帯に配布しました。さらに、自治会や地域包括支援センター、消防署朝日分署とも連携しながらカード情報の更新を促すための周知活動を行い、プランで示した取組の推進を図りました。

#### 【温海福祉センター】「温海ささえあいプラン」

第2次ささえあいプラン実施3年目としてプランに基づいた事業展開を行い、住民主体活動の支援として、「結の会」の取組について地域福祉委員会において実践報告をしていたいただき、委員の方々へ周知し、支え合いの意識醸成を図りました。また、個別課題の解決への

取組として、市民福祉課と地域包括支援センターあつみと定期的な会議により情報共有を徹底し、個別ケースに係る相談支援機関と積極的に連携することで早期対応に努め、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを図りました。

## 2. 生活支援事業

### (1) 総括

高齢や障がいなどにより判断能力が十分でない方の福祉サービスの利用や日常的な金銭管理の支援では、利用者の抱える課題も複雑多様化していることから、相談支援機関や病院など関係機関と連携しながら支援しました。また、法人後見事業においても、困難な課題を抱えているケースが増えていることから、弁護士、司法書士に手続きを依頼したり、法人後見運営委員会の助言等を仰ぎながら適正な支援に努めました。鶴岡市より新たに受託した鶴岡市成年後見制度中核機関の運営については、利用促進連携協議会準備会議の開催や受任者調整会議、支援困難ケース会議を試行的に開催し、令和6年度の本格開催に備えました。また、相談支援機関を対象とした成年後見制度研修会や市民向けチラシ・リーフレットの作成を行い、広報啓発も含めた機能の充実に努めました。

県社協の委託事業であるフォローアップ支援では、生活福祉資金特例貸付の借受世帯のみならず、緊急小口資金拡充支援資金やたすけあい資金の借受世帯も含め、世帯の状況把握を行い、償還指導も含め、継続した支援に努めました。

新たな生活支援サービスの検討では、潜在利用者の把握や先進社協の聞き取りを行うなど、骨子案の作成に向け継続的に検討を重ねました。

### (2) 重点事業

#### ① 成年後見制度の意識啓発

成年後見制度に係る市民等からの相談が、電話やホームページへのメールでの問い合わせを含め10件程ありました。内容に応じて、来所での再度の相談や専門機関への同行など、丁寧な対応を行いました。鶴岡市成年後見制度中核機関においては、利用促進連携協議会の立ち上げや、受任者調整、支援困難ケース会議のほか、一次相談窓口等の担当者を対象とした成年後見制度研修会やチラシ・リーフレットの作成など、広報機能の充実も図られるよう計画的な運営に努めました。

#### ② 日常生活自立支援事業の適正な推進

判断能力が不十分で、金銭管理に課題のある事業利用者が増加傾向にあるなか、実施主体である県社協から適正な利用契約と事務負担軽減を図るため、「日常生活自立支援事業推進方針」が示されました。福祉サービスを利用中か利用予定である利用者に対象が限定されたことから、利用希望者の課題把握や代替制度の有無などについて事業利用の必要性の精査を進めた結果、施設や親族で管理できる事案等もあり、本事業を必要としている利用者に注力することができ、事務の適正化を図ることができました。

#### ③ 償還指導と生活の安定に向けた支援

生活福祉資金特例貸付及び緊急小口資金拡充支援資金貸付については、借受世帯の多くが令和5年1月から償還が開始されていることから、償還免除、猶予申請手続きの支援の

ほか、電話や訪問、手紙によるアプローチを行うなど、継続的に関わり、必要に応じて鶴岡地域生活自立支援センター（くらしス）等の関係機関とも連携し、生活の安定につながるよう支援しました。また、各福祉センター、くらしスと定期的に会議を開催するなど、情報を共有し、支援のあり方を確認しながら対応に努めました。

#### ④ 新たな生活支援サービスの事業化の検討

障がいや加齢、資金不足、緊急連絡先が見つからないなど、住まいの確保や維持に課題のある方へ、本会が緊急連絡先になること、定期的な架電や訪問により困りごとの把握、解決を図ること、将来の転居費用を預託金として預かること等を柱にし、生活支援サービスの構築を目指して、全国の先進社協7か所へ調査を行い、参考にできる手法を得ることができました。収支や生活状況を把握しやすい日常生活自立支援事業の契約者を対象にした事業化を目指し、要綱や申請様式の検討に取り組みました。

### (3) 生活支援関連事業

#### ① 日常生活自立支援事業（山形県社協委託事業）

初期相談の段階から成年後見制度への移行が想定される認知症高齢者や精神障がい者が増えました。収支や負債の把握、親族状況の確認を進め、第三者管理に慣れた段階で後見へ移行したケースが2件、認知症の進行や家族の死亡、施設入所の必要から後見申立てがなされ後見へ移行したケースが4件ありました。収支の全体が把握できる事業の機能を生かして賃貸住宅解約のための現状回復費用を準備して入所を果たしたり、ペットの猫の管理をめぐるトラブルについて根気強く対応し解決した事案もありました。多額の負債や複雑な親族関係など、利用者の課題が重篤化しており、複数の機関と連携して取り組む事案が増えました。

<契約件数等の推移>

年度	相談件数	新規契約件数	利用者数
R3	2,149 件	36 件	193 人
R4	2,283 件	48 件	205 人
R5	2,262 件	29 件	198 人

#### ② 成年後見推進事業

法人後見については、令和6年3月末現在26件を受任しています。新規ケースでは、初めて保佐監督人を受任しました。月1回のケース検討会、副担当制の導入により、課全体で支援方針の確認と情報共有を行いました。法人後見運営委員会では、新規ケースを中心に支援のあり方や課題について活発な意見が交わされ、委員の助言を受け適正化を図りました。また、相続や財産処分など法律課題解決のため、法人予算の弁護士相談費用を活用したケースが2件ありました。家庭裁判所書記官に、居住用不動産の処分や売却、特別な対応を行ったことについて連絡票を活用して報告、相談を重ねた案件もありました。

鶴岡市成年後見制度中核機関においては、先進地視察や鶴岡市担当課との打合せ等も踏

まえながら取り組みを進め、権利擁護支援に係る専門機関及び相談支援機関等とのネットワークの強化に努めました。

＜法人後見受任件数＞

(単位：件)

年度	後見	保佐	補助	保佐監督人	合計
R3	10	8	3	0	21
R4	11	8	4	0	23
R5	12	7	6	1	26

### ③ 生活福祉資金貸付事業（山形県社協委託事業）

生活福祉資金貸付は、進学や進級に伴う教育支援費・就学支度費の貸付が最も多く、次いで転居費用を補うための福祉費や緊急小口資金となっています。貸付後は民生委員・児童委員等関係機関と連携を図りながら償還指導を行うとともに、滞納世帯に対しては県社協等とも連携しながら償還指導を行いました。

生活福祉資金特例貸付に関わるフォローアップ支援では、償還免除等の要件に該当すると思われるものの申請手続きがなされていない世帯等については面談を行うなどして申請につなげました。また、失業中や病気療養中の借受人等には、償還猶予申請の支援を行うなど相談に応じました。金銭面以外のニーズがある世帯もあり、相談支援機関と情報共有を行い、ニーズに対応できるよう調整しました。

＜生活福祉資金貸付件数等＞

年度	貸付件数	貸付金額
R3	39 件	20,023,000 円
R4	22 件	24,548,000 円
R5	17 件	19,986,000 円

＜生活福祉資金新規貸付状況＞

(単位：件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
総合支援資金	0	0	0	0	0	0	0
教育支援費、就学支度費	6	0	0	0	0	0	6
教育支援費	1	0	0	0	0	0	1
就学支度費	1	0	0	0	0	0	1
技能修得費	1	0	0	0	0	0	1
療養費	0	0	0	0	0	0	0
障がい者自動車購入費	0	0	0	0	0	0	0
転居費	2	0	0	0	0	0	2
緊急小口資金	2	0	0	0	0	0	2
その他	3	0	0	1	0	0	4
合計	16	0	0	1	0	0	17

#### ④ たすけあい資金貸付事業

貸付件数は例年 100 件前後を推移していましたが、令和 5 年度は 75 件と大幅に減少しました。国の施策による低所得世帯等への給付金の支給が影響しているものと思われます。一方、借受世帯の申請理由の内訳は例年同様、予定外の出費による生活費不足や生活保護申請から決定までをつなぐ費用としての申請が多い状況となっています。しかし、いずれも日常的な金銭管理に問題があるため生活費不足に陥っているケースもあることから、状況によっては日常生活自立支援事業の利用や地域生活自立支援センターへの相談につなぐなど、根本的な課題解決が図られるよう支援を行いました。

滞納世帯に対しては、電話や文書での督促のほか、特例貸付のフォローアップ支援と併せ訪問や面談を行い、現状把握と償還指導を実施しました。

<たすけあい資金貸付件数等>

項目		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R3 年度	件数(件)	87	3	3	0	1	11	105
	金額(円)	2,082,000	120,000	55,000	0	6,000	290,000	2,553,000
R4 年度	件数(件)	85	5	3	1	1	8	103
	金額(円)	2,323,000	130,000	85,000	20,000	20,000	172,000	2,750,000
R5 年度	件数(件)	54	4	2	5	0	10	75
	金額(円)	1,452,000	120,000	40,000	110,000	0	230,000	1,952,000

<たすけあい資金新規貸付状況>

(単位:件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
生活費	40	1	2	1	0	8	52
生活保護つなぎ資金	9	2	0	2	0	2	15
治療費・療養費	1	0	0	0	0	0	1
入園・入学及び支度金	1	0	0	0	0	0	1
住宅費	0	0	0	0	0	0	0
転居費	2	0	0	0	0	0	2
その他	1	1	0	2	0	0	4
合計	54	4	2	5	0	10	75

#### ⑤ フードバンクの取組

フードバンクについては、コープフードバンクや地域住民の協力(フードドライブ)、個人や企業からの寄付などに支えられました。新たにフードバンクの取組を行なった企業からの寄付もあり、緊急的に食料支援が必要な方へ支援を行うことができました。令和 5 年度は令和 4 年度と比較すると利用者数は減少していますが、複数回利用の方も多く、必要に応じて関係機関と連携しながら困窮状態の把握や家計管理の声かけ、情報共有に努めました。生活保護の決定や貸付決定までのつなぎとして、また貸付を受けずに次の収入が入るまでの

つなぎとしてフードバンクが活用されています。

＜フードバンク食品提供件数＞

(単位：件)

年度	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R3	153	1	6	4	0	15	179
R4	223	4	6	3	1	13	250
R5	162	8	10	18	5	9	212

#### ⑥ 緊急小口資金拡充支援資金貸付事業（市独自）

令和6年3月末現在、借受世帯329件のうち、償還完了が12件、償還猶予が8件、償還免除は全体の約4割を占める141件となっています。償還は毎月口座振替及び口座振込の方法により約160件の償還事務を行っており、そのうち計画通りの償還は約5割で償還が滞っている世帯も同数程度といった状況にあります。本貸付は特例貸付（緊急小口資金）の貸付を受けた世帯を貸付要件としていることから、県社協より受託したフォローアップ支援の動きと併せ、鶴岡地域生活自立支援センター（くらしス）とも連携しながら、借受世帯の状況把握に努め、生活の安定につながるよう支援しました。



### 3. 相談支援事業（市委託事業）

#### (1) 地域包括支援センター

##### ◆ 総括

高齢者等が可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を継続することができるよう、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の三職種が多様な相談に対応し、他機関等と連携しながら適切に各種制度や必要な地域資源につなぐなど、総合相談の拠点としての機能充実に継続して努めました。

生活支援コーディネーターにおいては、地域における高齢者の生活支援や介護予防の基盤整備に向けて、その調整役を担いながら、地域住民・関係機関等と協働のもと地域ケアネットワーク会議などを開催し、地域の支え合いの仕組みづくりを推進しました。

<地域包括支援センター職員配置>

(単位：人)

	担当地域	65歳以上 人口	保健師	主任 ケアマネ	社会 福祉士	生活支援 コーディネーター
地域包括支援センター かたりあい	第六学区・大泉・上郷・三瀬・由良・小壑	6,854	1	1	2	1
地域包括支援センター なえづ	第二学区・斎・黄金	3,533	1	1	1	1
地域包括支援センター くしびき	櫛引	2,595	1	1	1	1

※65歳以上の人口は令和5年3月末現在

##### ◆ 重点目標に対する成果・達成

複合的な課題に対し分野を超えて包括的に支援することができるよう、関係機関等と個別支援会議などを通して、連携を図りながら一体的な支援に努めました。また、県や市、関係機関等が主催する各種研修会に積極的に参加し、センター内で情報共有等を行いながら資質向上に努めました。

高齢者の自立支援に向けた適切なケアマネジメントを実施し、切れ目のない介護予防を継続できるよう、百歳体操等の通いの場づくりやフォローアップ等、通いの場を維持・継続するための支援に積極的に取り組み、地域の支え合いの仕組みづくりに努めました。

<相談件数>

(単位：人)

年度	相談件数	内訳規	相談形態				相談者	
			訪問	来所	電話	その他	本人・家族等	その他
R3	8,237	365	2,455	759	4,506	517	6,809	5,024
R4	6,918	431	2,018	594	3,676	630	5,515	4,655
R5	6,917	451	1,972	555	3,759	631	5,750	4,672

<相談内容> ※重複含む。

(単位：人)

年度	実態把握	権利擁護関係	介護関係	疾病・障がい関係	包括的	在宅福祉サービス	医療関係	経済的問題	事業対象者・要支援者	その他	介護予防ケアマネジメント	指定予防支援
R3	474	653	2,265	984	687	419	462	166	421	364	1,457	1,476
R4	409	659	2,616	1,077	916	523	605	166	456	276	541	446
R5	404	773	3,065	1,412	813	412	652	283	437	258	563	244

※事業対象者・要支援者：平成 29 年度開始した総合事業のうち給付実績を伴わない相談

※介護予防ケアマネジメント：平成 29 年度開始した総合事業のうち給付実績を伴う相談

※指定予防支援：要支援 1 又は要支援 2 の認定者の介護予防・生活支援サービス事業以外の給付実績を伴う相談

<研修参加状況>

内 訳	参加人数	研 修 内 容	
内部研修	93 人	法令遵守・接遇関連研修	12 人
		新採職員・階層別・管理職研修	24 人
		B C P 関連研修	10 人
		医療・感染症関連研修	6 人
		高齢者虐待・身体拘束関連研修	27 人
		ハラスメント関連研修	6 人
		介護報酬改正関連研修	8 人
外部研修	227 人	新任研修	12 人
		地域包括支援センター業務関連研修	50 人
		地域ケア関連研修	32 人
		医療・感染症予防関連研修	7 人

		認知症関連研修	15人
		高齢者虐待・身体拘束関連研修	4人
		権利擁護関連研修	4人
		介護予防関連研修	1人
		ケアマネジメント関連研修	32人
		多職種との意見交換・情報交換会	23人
		生活支援コーディネーター関連研修	35人
		認知症カフェ関連研修	12人
合計（延べ）	320人		

## ◆ 事業の実施結果

### ○ 地域ケアネットワーク体制の推進

地域ケア推進担当者や学区・地区社協、民生委員・児童委員、警察、金融機関等と協働で地域ケアネットワーク会議等を開催し、身近な地域で支え合える体制整備の重要性の理解を深め、地域における地域ネットワーク体制の推進に努めました。

高齢者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、介護予防や日常生活が活性化する通いの場づくりや継続するための支援に取り組み、また通いの場に参加することで参加者同士の関係性を保ち、地域とのつながりを深められるよう、支え合いの地域づくりの推進に努めました。

<地域包括ケアシステム構築のための事業、会議の回数>

年度	介護予防普及啓発事業	地域ケア連携等の会議	事例検討会議
R3	310	266	17
R4	470	248	23
R5	463	275	25

※介護予防普及啓発事業：地区サロン、介護予防講座、住民研修会等

※地域ケア連携等の会議：地域ケア会議<sup>9</sup>、民協定例会等

### ○ 地域包括支援センターの機能強化

複合的な課題に対応するため行政をはじめ、地域の保健・医療・福祉等の多職種と連携を強化し、インフォーマルサービスなど様々な地域資源による支援体制の構築を図りました。

<sup>9</sup> 地域ケア会議：地域包括支援センターまたは市が主催し、設置・運営する「行政職員をはじめ、地域の関係者から構成される会議体」。個別ケースの検討を目的とした「地域ケア個別会議」、日常生活圏域における地域づくり、資源開発の検討を目的とした「地域ケアネットワーク会議」、市全体の地域づくり、資源開発や政策形成の協議を目的とした「地域ケア推進会議」、地域包括支援センター・市健康課・市社協地域福祉課の職員をメンバーとした「地域ケア推進担当者会議」で構成される。

重層的支援体制整備事業移行準備事業について、地域福祉課及び福祉センター等と連携し、課題解決に向けた支援の強化とともに、地域づくりの推進を図りました。

また、各種相談に対応できるよう、業務に必要な相談技術やケアマネジメント技術の向上のため研修等に積極的に参加し、各職員が学んだ内容を伝達、共有することにより職員全体の資質向上に努めました。

#### □ 地域包括支援センターかたりあい

複合的な課題に対応するため、地域住民や関係機関と連携して地域の特性に応じた支え合いの仕組みづくりを推進しました。

認知症等の早期発見や地域における普及啓発を通じて、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるような支援体制の構築に努めました。

#### □ 地域包括支援センターなえづ

複合的な課題に対応するため、関係機関と情報共有や連携を図り、総合相談の拠点としての機能強化を図りました。

地域包括支援センターの周知を図りながら、潜在している要援護高齢者の把握に努め、適切な支援につなげられるように努めました。

#### □ 地域包括支援センターくしびき

高齢者の様々な相談にワンストップで応じ、適切に保健・医療・福祉サービス、又は各種制度につなぎ、総合相談の拠点として機能の充実を図りました。

複合的な課題を抱える方やその世帯に対し包括的に関わり、櫛引福祉センターと共に地域課題の把握と支援体制の構築に努めました。

### (2) 鶴岡市障害者相談支援センター

#### ◆ 総括

障がい者が地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、相談窓口として本人や家族への相談支援をはじめ、基幹相談支援センター（市委託）として指定相談支援事業所の担当調整や困難事例への同行支援、検討会を行い、また、権利擁護・障害者虐待の相談は市担当課と連携を図り対応しました。

鶴岡市障害者地域自立支援協議会で課題として挙げられている事項について、対応策や解決策をまとめ、運営委員会に諮りました。研修や高齢・児童・保健・医療・教育・就労等他分野との情報交換会を開催し、お互いの取組について理解を深め連携強化に努め、また、事例検討会を実施しながら、専門職としての資質向上につなげました。

## ◆ 重点目標に対する成果・達成

障がい者の特性や地域生活課題等の多様化に応じた総合的な相談支援を行うため、顔の見える関係づくりができるよう、情報交換会を開催しました。各ライフステージで情報共有に課題も見られ、切れ目ない支援に向け、教育機関や関係機関と具体的な情報共有のあり方について協議しました。

地域全体で障がい者の生活を支える体制の「地域生活支援拠点事業～つるおか安心ネット～」については、事業周知等による利用登録推進を行い、支援が必要な障がい者の相談支援に努めました。

## ◆ 事業の実施結果

### ○ 総合的・専門的な相談支援

障がいのある人やその家族の抱える課題について連携が図れるよう、医療・教育・就労などに関する専門機関と顔の見える形で情報共有の場を持ちました。また、鶴岡市障害者地域自立支援協議会の部会研修会や情報交換会を開催し、更に、地域課題の具体的な解決策について自立支援協議会の運営委員会で話し合いました。

### ○ 相談しやすい体制と切れ目ない支援の体制づくり

切れ目のない支援について、年齢ステージごとの関係機関と情報共有を行いました。また、「地域生活支援拠点の整備」については登録の推進を行いました。相談内容については、福祉サービスの利用や社会参加に関する相談、また、家族・人間関係が増加しており、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類へ移行したことによる影響や、家族間での金銭問題、家族全体での支援が必要なケースが増加しました。

<相談状況>

(単位：件)

年度	相談件数(延べ人数)			うち新規件数		
	計	障害者	障害児	計	障害者	障害児
R3	9,799	9,179	620	103	85	18
R4	10,557	9,520	1,037	132	102	30
R5	10,786	9,858	928	128	90	38

<相談方法>

(単位：件)

年度	計	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関調整	その他
R3	13,669	2,191	663	301	3,627	162	64	6,341	320
R4	14,255	2,030	555	247	3,093	112	31	7,557	630
R5	14,208	2,306	515	341	3,305	155	17	7,531	38

<相談内容の内訳>

(単位：件)

年度	計	福祉サービス利用	障がい・病状理解	健康・医療	不安解消 情緒安定	保育・教育	家族・人間関係
R3	10,278	6,565	704	851	646	46	293
R4	12,070	7,134	602	1,287	864	99	486
R5	12,108	7,652	482	1,247	568	133	530

年度	家計・経済	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他
R3	175	312	279	39	48	320
R4	390	224	302	178	149	355
R5	379	243	241	248	157	228

○ 障がいのある人の充実した生活への支援

◇ 障がい者理解啓発・障害者アート展の開催

鶴岡市障害者地域自立支援協議会のしごと部会で、障がいのある方が働きやすい職場環境をつくれるよう研修会を実施しました。「つるおか障害者アート展」は5年目を迎えiPadやノートパソコンを使つての映像での紹介やYouTube配信で事業所の活動を紹介しました。さらに、「鶴岡まちなかキネマ」とのコラボ企画として作品の一部を映画館で展示しました。

開催月日	イベント名	参加人数	内 容
10月6日 ～ 10月15日	障害者 アート展	来場者 941名	開催場所：鶴岡アートフォーラム 名称：「つるおかひょうげんの花2023～鶴岡の障がいのある人の表現活動を紹介する展示会～」 内容： ①「つるおか障害者アート展」 公募した鶴岡在住の障がいがある方の作品の展示 出品数：170点（個人・共同） ②やまがたきざしとまなざし2023 やまがた公募展入賞作品展（同時開催） ③参加型企画「わたしの花を咲かせましょう」 ④YouTube 配信 ⑤鶴岡まちなかキネマコラボ企画

◇ ピアカウンセリング・家族交流会

「医療的ケアを必要とするお子様のご家族の研修会・情報交換会」を開催し、また、保護者会の活動について説明を受け、医療的ケア児の保護者会の活動を研修しました。

### ◇ 日中活動・余暇支援

令和5年度の事務所移転に伴い、鶴岡市総合保健福祉センター（にこ♥ふる）内ボランティアセンターの一部スペースを、フリースペースとしてサロンを243日開設し、また、トレーニングルームでの軽運動は年2回開催し18名の利用がありました。

### ◇ 聴覚障がい者への支援

令和5年度より、聴覚障がい者の緊急時や発熱時も安心して手話通訳を受け診察ができるように遠隔手話通訳サービスを開始しました。また、「手話でおしゃべり移動お茶会」を開催し、聴覚障がい者の手話で自由におしゃべりできる場となり、更に、手話奉仕員養成講座入門編の実施では24名の参加があり、手話表現についてなど様々な質問が飛び交うなど意欲的な学習な場となりました。

<手話通訳設置事業相談対応状況>

年度	手話通訳	講師依頼	個別相談等	手話通訳者派遣調整
R3	99件	12回	147件	226件
R4	61件	13回	92件	265件
R5	74件	11回	109件	294件

<手話奉仕員養成講座開催状況>

年度	内容	回数	修了者数	備考
R3	入門編	20回	—	
R4	基礎編	22回	3人	
R5	入門編	22回	—	

### ○ 指定相談支援事業

#### ◇ サービス等利用計画作成

サービス等利用計画作成を通して、障がい者本人やその家族のニーズを聞き取り、自己実現、自立の支援ができるよう努めました。関係機関との連携を図り本人やご家族がその人らしく生活できるよう支援し、個別課題から地域課題へとつながるよう、部会や基幹相談につながりました。

<サービス等利用計画延べ作成数> (単位：件)

年度	新規（実人数）	継続
R3	103	1,440
R4	78	1,323
R5	128	1,327

## ○ 障害者地域自立支援協議会

障がいのある方が地域で安心して暮らすことができるよう、各部会の取組については、他分野との連携強化と課題についての具体的解決策の検討を行いました。保健・医療・福祉・教育・就労等の関係機関との情報交換会などを開催し、グループスーパービジョンを通して個別課題の検討や研修を行いました。

<各種会議開催状況>

(単位:回)

年度	運営委員会	部会長会議	部会及び部会 事務局会議、 研修	地域移行 定着委員会	個別支援 会議	事務局会議 (全体)
R3	2	1	66	1	63	4
R4	1	—	65	1	31	4
R5	2	—	62	1	16	3

## ◇ 専門部会

令和5年度は相談支援部会、しごと部会、発達障害部会の専門部会と、広報企画班に構成を変え、より共同体制が取れるように各部会と企画班合同により研修を実施しました。また、課題別情報交換会・研修会の開催、事例検討会等に取り組み、福祉サービス以外（医療、教育等）の機関にも参加していただき課題の共有と検討を行うことができました。

<各部会取組状況>

部 会 名	内 容
相談支援部会	<p>質の高い切れ目ない相談支援の提供と、本人やご家族が安心して地域生活ができるネットワーク構築を目指し活動を行いました。</p> <p>① 相談支援専門員の人材育成 ② 他分野他領域との連携強化 ③ 地域生活を支えるための体制整備</p> <p>※事務局会 11回 部会・研修会 10回 グループスーパービジョン 2回</p>
しごと部会	<p>障がいのある方の就労に関わる相談機関や事業所等と連携しながら、就労支援の現状・課題について共有し、就労継続支援事業所間のネットワーク強化、工賃水準の向上、障害者雇用を促進するための制度周知や企業の理解を図る目的として次の活動を行いました。</p> <p>&lt;しごと部会の活動報告&gt;</p> <p>① 就労系事業所間のネットワーク強化 ② 福祉事業所の企業からの認識不足、啓発活動 ③ 製品販売機会の確保</p>



	<p>&lt;プロジェクトチームの活動報告&gt;</p> <p>① 企業とのつながり強化</p> <p>② 学校（教育分野）とのつながり強化</p> <p>※事務局会議 5 回 部会研修会等 11 回</p>
発達障害部会	<p>地域課題に対する具体的な行動計画に基づきライフステージに応じた多分野多職種との連携を推進し、課題解決に向けた次の検討及び活動を進めました。</p> <p>① 切れ目ない相談支援体制の強化</p> <p>② 障がい理解の啓発活動</p> <p>③ 専門的人材育成</p> <p>④ 成人期のサポート</p> <p>※事務局会議 4 回、部会 3 回、ペアトレ連続講座 計 11 回、フォローアップ講座 1 回、サポートファイル関係機関会議 2 回</p>
広報企画班	<p>鶴岡市障害者地域自立支援協議会の活動の周知と各種サービスや支援、相談窓口等の情報発信の仕組みづくりと整備を図るほか、協議会各部会と連動し関係機関とのネットワーク構築のため以下の活動を行いました。</p> <p>① 自立支援協議会の活動内容の周知</p> <p>② 情報発信の仕組みづくりと整備</p> <p>③ 関係機関とのネットワーク構築と市民への理解啓発</p> <p>④ 社会資源の把握</p>

## ○ 権利擁護・虐待の防止

### ◇ 障がい者虐待防止の取組

障がい者の虐待に関する相談窓口として、鶴岡市と共に「障害者虐待防止センター」を担い、令和 5 年度は 4 件の相談対応を行いました。研修会は養護者による虐待の早期発見のための事業所同士の情報交換を開催しました。

研修名：障害者虐待防止研修会

日 時：令和 5 年 8 月 21 日（月）

内 容：1. 説明「養護者による虐待への対応、通報後の流れ」

2. 事例報告

3. グループワーク「虐待の早期発見のための各事業所での取り組み」

### ◇ 広報委員会

鶴岡市障害者地域自立支援協議会の活動内容の周知を目的に、アート展の取組や各部会の活動の様子など掲載した「自立支援協議会だより No.29・No.30」を発行し、鶴岡市のホームページへの掲載、鶴岡市内の障がい福祉サービス事業所へのメール配信、また、鶴岡市障害者相談支援センターのフェイスブックへ掲載しました。

### (3) 鶴岡地域生活自立支援センター（生活困窮者支援事業）

#### ◆ 総括

生活困窮あるいは社会的に孤立している状況にある相談者に対して、相談者が抱える課題と一緒に向き合い、自己選択、自己決定を基本とした相談支援を行いました。

信頼関係に基づく援助関係の構築、その人の思いや事情を尊重した支援の展開を心掛け、相談者が社会とのつながりを構築できるよう関係機関との連携を図りながら支援を実施しました。

#### ◆ 重点目標に対する成果・達成

相談者やその世帯が抱える課題について適切にアセスメントを行い、相談者を主体とした自立支援計画に基づき各種支援につなげ、本人の希望する自立に向けて支援しました。

自治体コンサルティングでの助言を受け、相談者やその世帯を取り巻く環境への働きかけ、多職種、他機関、地域住民との連携・協働など、事業の普及啓発や就労体験の場を含めた社会資源の発掘の必要性を学び、職場体験・見学の依頼等企業開拓を検討・実施しました。

さらに、就労に向けた準備が必要な方に対しては、就労準備支援事業「したくホーム」での就労支援・作業支援・社会人スキルアップ・就労体験を通じ、本人の状態に応じた支援を行いました。

#### □ 自立相談支援事業（くらしステーション 鶴岡市・庄内総合支庁委託）

##### ◆ 事業の実施結果

##### ○ 伴走型支援を中心とした相談支援

生活困窮の状況にある相談者が抱える課題に対し、アウトリーチ、断らない相談支援を心掛け、課題解決のみならず、相談者が抱える孤立、孤独の状況を理解して伴走型支援を行いました。相談者に応じて必要な地域関係組織や各相談支援機関と連携、協働しながら相談支援を実施しました。

##### ○ 生活困窮者支援を通じた地域づくり

相談者が地域の中で孤立することなく生活していけるように、地域社会とのつながりの再構築のため、民生委員・児童委員や自治組織、関係機関などへのチラシ配布による事業周知や協働に努めました。

就労準備支援事業（したくホーム）と協働し「ビューティーアップセミナー」を開催し、市民に向けて相談窓口の周知活動を行いました。

##### ○ 相談支援のスキルアップのための研修

複雑・複合化している生活困窮の課題を抱える方への相談に対し、ニーズを的確に捉え、課題に対して適切な支援ができるようスキルアップするため、積極的に研修会等へ参加しました。

県が主催する人材育成研修の企画メンバーとして参加し、事例や研修内容の検討を行ったことで、制度についての理解や自己研鑽に努めました。

＜相談件数等 鶴岡市・三川町＞ (単位：件)

年度	新規相談件数	延べ相談件数	プラン作成	就労者数
R3	335	3,118	12	45
R4	187	2,359	16	23
R5	178	1,934	21	26

＜相談内容 鶴岡市・三川町＞ (単位：件)

年度	相談内容内訳																合計
	病気・障がい・健康	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金	債務	仕事探し・就職	地域との関係	家族関係	ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない	介護	教育資金・子育て	依存症	その他(ゴミ屋敷・ペット含)	
R3	13	33	189	8	2	8	45	0	8	7	2	3	5	0	2	10	335
R4	8	23	93	3	1	7	23	2	4	7	0	0	2	0	0	14	187
R5	23	23	50	11	2	6	26	0	12	8	0	2	3	1	1	10	178

＜会議・研修・事業周知活動等＞

名称	目的	回数	参集、協力、配布等機関
鶴岡市支援調整会議	・プランの確認、評価 ・就労準備支援事業利用決定、評価	13	福祉課・健康課・ハローワーク・市社協（地域福祉課・生活支援課）
三川町支援調整会議	・支援ケースの確認 ・情報交換	2	庄内総合支庁地域保健福祉課・三川町健康福祉課・三川町社会福祉協議会・ハローワーク
自立相談支援の事業説明会	・事業説明 ・民生委員、関係組織との連携	8	・第3民生区民生児童委員協議会 ・ひきこもりの方の家族の会他 ・くらしス×「資生堂ビューティーアップセミナー」
庄内地域生活保護受給者等就労自立促進協議会（鶴岡・酒田公共職業安定所）	・生活保護受給者等の就労支援	1	庄内管内各関係機関
生活困窮者自立支援制度人材養成研修	・研修（配信含）	7	全国社会福祉協議会、山形県他

重層的支援会議	・支援関係機関による 役割・支援方法の明 確化を図る	2	多機関協働事業者（市社協 地域福祉課）・ 市地域包括ケア推進室・地域包括支援センタ ー・子ども家庭支援センター他
---------	----------------------------------	---	--

## □ 就労準備支援事業（したくホーム 鶴岡市委託）

### ◆ 事業の実施結果

#### ○ 就労準備支援プログラムの実施

就労による自立の支援を行うため、社会との関わりに不安を抱え、就労に適応する準備が整っていない方については、3つの自立（①日常生活自立、②社会生活自立、③就労自立）を目指し、本人の状況に応じたプログラムを提供し、基礎能力の形成と意欲の向上を図るとともに、社会的孤立の解消が図れるようなプログラムを実施しました。

<支援件数等>

（単位：件）

年度	新規件数	終結件数	利用者数	就労者数
R3	7	10	12	8
R4	5	2	8	2
R5	7	7	11	6

#### ○ 社会資源とのネットワークの構築

利用者が就労に向けて意欲的な活動ができるよう、地域の総合的雇用サービス機関であるハローワーク等との連携を図りました。

一般企業への事業周知と、利用者の就労・見学体験の受入れを促すため「就労体験受入れ企業募集案内」を作成し、ハローワーク、就職セミナー等に出向き事業説明と就労体験（見学）先の依頼を行いました。

これまで相談機会がなかった方にも、事業の周知と相談のきっかけになることを目的に自立相談支援事業（くらしス）と共同でビューティーアップセミナーを開催しました。

したくホームだよりを発行し「したくホームを利用された方の声」を掲載するなど事業周知を行いました。

<令和5年度 就労準備支援事業のプログラム内容>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	なりわい部会	調理実習 パソコン演習	なりわい部会	ボランティア 活動	だだ集会
午後	なりわい部会	なりわい部会	なりわい部会	なりわい部会	なりわい部会

※主な実施場所は鶴岡銀座商店街鶴岡ダダ3階

※個別に企業・事業所の協力による就労体験プログラム実施

<地域貢献活動>

銀座通り周辺の美化活動（ゴミ拾い、除草）

<プログラム>

- なりわい部会 : 高島産業の工業ブラシ内職作業  
赤川ゴルフ グリーンキーパー作業
- 調理実習 : 一人暮らしを想定した調理  
調理を通して相談、コミュニケーション練習
- パソコン演習 : 個別のレベルに応じたWord・Excel操作
- ボランティア活動 : 銀座通り・にこふる駐車場のゴミ拾い
- だだ集会 : コミュニケーション練習、グループワーク、  
模擬面接、履歴書の書き方、社会人マナー、挨拶、みだしなみ等
- その他 : 面談、農福連携プロジェクト事業「地域交流農園」への参加

**○ 職員研修の実施**

就労準備支援事業従事者養成研修会等の研修会に積極的に参加し、知識や技術の向上に努めました。

自治体コンサルティングの助言を受け、関係機関と事業展開の方法や新たな取組の情報共有を行いました。また、企業への体験を通して本人の能力をアセスメントするポイントを学びました。

## 4. 高齢者福祉事業

### (1) 総括

介護保険の基本理念に基づき、「利用者の目指す生活、自分らしい生活」を送るための支援に努め、市民、利用者から信頼され選ばれる高齢者福祉サービスの提供に努めました。

新型コロナウイルス感染症の感染状況としては、利用者、職員合わせて200人弱の感染者が発生しましたが、健康観察の徹底や感染拡大防止対策に努めた結果、1日も休業することなくサービス提供を行うことができました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、感染状況に留意しながら、ボランティアの受入れや自治会活動への参加など地域との交流を少しずつ再開しました。

介護保険の利用状況は、令和4年度と比較すると、通所介護で延べ利用者数が前年比793人の増、居宅介護支援は延べケアプラン作成数が49件の減、訪問介護は延べ訪問回数834回の減となりました。特に通所介護では、経営基盤の強化に向けたプロジェクト会議を中心に事業の効率化や定員見直しを進めた結果、全体では微増となりましたが、事業所によって増減に差があり、経営的に厳しい状況は続きました。

事業展開については、4月に新本部事務局で通所型サービスA事業「はつらつ元気まちトレ」を開始、9月にデイサービスセンターたかだて、10月にはデイサービスセンターおおやまの定員見直しをそれぞれ実施、また、令和6年度に向けて、デイサービスセンターはちもりのデイサービスセンターとようらへの統合や定員見直し、特別養護老人ホームおおやま及び短期入所センターおおやまの定員見直しなど、引き続き各事業の見直しを行いました。

介護職員初任者研修は4名受講、新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底しながら実施し、全員終了することができました。一方、近年の受講申込者数の減少を踏まえ、地域の介護力向上と在宅介護支援という一定の役割は終了したものと判断、山形県指定の介護職員養成研修事業（介護職員初任者研修課程）を令和5年度末で廃止しました。

「第三期事業経営計画」の取組については、計画の中間年として、推進作業班メンバーによる全体会議を2回、各班による会議を随時開催し、各推進作業班を中心に計画の取組を進めました。

### (2) 重点事業

#### ①「第三期 事業経営計画」の中間年の検証と推進

5年間にわたる計画の中間年として、重点課題ごとに、計画達成に向けた具体的な取組を進めました。

基本的な視点	重点課題に対する令和5年度の主な取組
1. 信頼性の高いサービスの提供	<p>(1)人権を尊重した良質なサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止会議及び身体拘束適正化会議を年2回開催するとともに、研修会を行い利用者の権利擁護に取り組みました。</li> <li>・9月に「サービスに関するアンケート調査」を介護保険施設23か所、障がい福祉サービス事業所9か所で、利用者またはその家族を対象に実施しました。調査の結果、1,069件の配布に対し841件の回答数、78.7%の回答率となりました。アンケート結果については、回答の有無にかかわらず全利用者に配布するとともにホームページにも掲載しました。</li> <li>・職員の交換研修「ワンデイオブザーバー研修」を9月から3月にかけて3件実施しました。</li> </ul> <p>(2)安全・安心なサービス提供ができる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業部門の事業継続計画（BCP）策定に向けて検討を行い、令和5年度末時点で12施設18事業で計画を策定しました。</li> <li>・感染症対策の強化については、全体会議を年2回開催、各事業所では年4回の感染症対策委員会を開催し、感染予防に取り組みました。</li> </ul>
2. 地域に開かれた施設づくり	<p>(3)部門間の連携による地域における公益的な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における公益的取組の推進について、施設長会議で改めて周知を行い、取組の促進を図りました。</li> </ul> <p>(4)信頼を得るための積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを活用した情報発信の検討を行い、ホームページの充実に向けた体制作りを行いました。</li> </ul>
3. 人財育成の推進	<p>(5)職位に応じた研修体系の確立</p> <p>(6)次世代を担うリーダーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月から階層別WEB研修システムの稼働を開始、9月からはWEB研修受講後の階層別集合研修を開始、合計で283名の職員が受講しました。</li> <li>・総務課、職員厚生課との合同会議を3回開催し、「2023年度版鶴岡市社会福祉協議会キャリアパス」を完成させました。</li> </ul>

4. 将来性・継続性を見通した事業の展開	<p>(7) 社会情勢の変化を見据えた事業展開の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営基盤の強化に向けたプロジェクト会議を法人内に立ち上げ、プロジェクト会議を中心に、通所介護事業の統合や定員見直し、くしびき高齢者生活福祉センターの見直しについて検討を行いました。</li> <li>・職員座談会の実施について、夏季の新型コロナウイルス感染症の感染拡大等を勘案し中止としました。</li> </ul> <p>(8) 適正かつ効率的な経営管理の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月、12月の事業経営会議や施設長会議で事業分析を実施し、施設経営について検討を行いました。</li> </ul>
----------------------	--

## ② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、虐待防止研修や身体拘束適正化研修、接遇研修などを行い、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

## ③ リスクマネジメント<sup>10</sup>の推進

介護事故のリスク把握と組織的なリスク管理、利用者の安心安全を確保するため施設ごととリスクマネジメントに取り組むとともに、リスクマネージャー養成講座を2名が受講し、組織全体のリスク管理の意識付けと事故防止の徹底に努めました。

## ◆自動車事故報告

令和5年度の事故件数は48件で令和4年度比10件減でしたが、施設内や訪問先での石垣や塀などへの接触による車両事故は33件と同数発生しました。

運転業務の事故防止を図るため、11月に社協全部署を対象とした「安全運転研修会」を開催し、鶴岡警察署交通課職員を講師に迎え、運転者の安全運転義務等について研修を行いました。シルバー人材センターから派遣されている運転手も含め、53人の参加で実施しました。

<自動車事故件数>

(単位：件)

年度	衝突 追突	接触	脱輪	破損 (車輛・物)	人身 事故	交通 違反	不明	合計
R3	7	39	1	6	0	3	10	66
R4	4	33	1	10	0	0	10	58
R5	3	33	0	2	0	1	9	48

<sup>10</sup> リスクマネジメント：事故の原因や要因を特定し、分析することによって事故などの回避または低減を図ること。



#### ◆介護事故報告

令和5年度の事故件数は220件となり、令和4年度比53件増となりました。特に服薬関係について、引き続き職員間で共有しながら事故防止に努めましたが49件発生し、令和4年度比10件増となってしまいました。転倒による骨折やひびなどの重大事故は令和4年度より1件増の12件でした。

事故については、職員一人ひとりの意識の向上に向け「気づき改善シート」（事故が起きる前に気づいた事を書き出すシート）を活用し、重大事故とならないように努めました。

<事故件数>

(単位:件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
R3	7	47	65	181	300
R4	11	39	20	97	167
R5	12	49	46	113	220

#### ④ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症などの感染症に対する理解と意識を深めるため、感染症対策委員会やリスクマネジメント委員会、看護師会議を中心に研修・訓練の実施やマニュアルの確認などを行うとともに、マスクや消毒液など衛生用品の備蓄を進めました。

#### ⑤ 災害時の地域と連携した対応

災害や感染症等が発生した場合に地域との連携・協力が大切であることから、訓練の実施に当たっては地域住民の参加が得られるよう連携を図ることとしており、新型コロナウイルス感染症の感染状況に留意しつつ、可能な限り取り組むことができました。

#### ⑥ 個別機能訓練の充実

高齢者の自立支援や重度化防止を図るため、理学療法士・作業療法士・看護師の専門職による機能訓練メニューや日々の生活に沿ったリハビリ等を通し、個別機能訓練の充実に取り組みました。

また、通所介護で行っている個別機能訓練へ科学的介護情報システム(LIFE)<sup>11</sup>の導入について検討を行い、先行してデイサービスセンターなえづとデイサービスセンターふれあいで実施しました。

<sup>11</sup> 科学的介護情報システム(LIFE):Long-term care Information system For Evidenceの頭文字をとった言葉で、データの提供とフィードバックの活用によって、PDCAサイクルの推進とケアの質の向上を図ることを目的とした情報システムのこと。

### ⑦ 経営的視点を持った施設運営

経営の効率化・安定化が求められているため、事業経営会議や施設長会議などで各事業の経営分析を行い、経営状況を把握しながら事業展開を図り、通所介護事業の統合や特別養護老人ホームの定員の見直しなど、引き続き各種事業の見直しを行いました。

### ⑧ 業務改善への取組

介護職員の人財確保や離職防止、職員が働きやすい環境を整えるため、訪問介護事業や居宅介護支援事業においてICT<sup>12</sup>やAI<sup>13</sup>の導入について検討を行いました。十分な検証はできませんでした。また、通所介護事業では、ケアプランデータ連携システム<sup>14</sup>の導入を踏まえ、既存ソフトとの連動による生活相談員の業務見直しなどの取組を試行的に実施しました。

### ⑨ 地域交流・地域貢献の推進

これまで各施設で行ってきた環境美化活動や専門職による出前講座、サロンの開催など、地域交流・地域貢献の充実を図りながら積極的に取り組むこととしておりましたが、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことに伴い、感染状況に留意しつつ、できることから少しずつ再開することができました。

## (3) 高齢者福祉関連事業

### ① 通所介護事業

利用者本人が持つ力や意欲を引き出せるような支援に努め、さらに、理学療法士・作業療法士・看護師等の専門職による個別機能訓練に力を入れ、利用者の心身機能の維持又は向上に努めました。

認知症対応型通所介護事業については、地域密着型の施設として6か月に一度開催する運営推進会議<sup>15</sup>について、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため書面によって報告していましたが、感染状況に留意しながら参集による会議を開催した事業所もあり、施設の状況報告のみならず、地域住民や関係機関との意見交換を行いながら地域に開かれた施設を目指しました。

通所型サービスAについては、ふれあい、おおやま、くしびきの各デイサービスは、新本部事務局で実施する、はつらつ元気まちトレへ集約しました。デイサービスとようら、愛寿園については、利用者の身体状況に応じた運動・レクリエーションなどを行い、生活機能の維持又は向上を目指しました。

---

<sup>12</sup> ICT：パソコンだけでなくスマートフォンやタブレット、スマートスピーカーなど、様々な形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

<sup>13</sup> AI：人工知能を活用したケアマネジメント支援システムで、ケアプラン作成から管理業務を支援し、業務の効率化が期待される。

<sup>14</sup> ケアプランデータ連携システム：居宅介護支援事業所と介護サービス事業所の間で毎月やり取りされるケアプランの一部情報（予定・実績）を、システム上でデータによって送受信できるようにした共通の情報連携基盤のこと。

<sup>15</sup> 運営推進会議：定員18名以下の小規模型通所介護事業所において、利用者や利用者の家族、地域住民等をメンバーとした会議を開催し、活動状況の報告等を行う会議。

新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、感染者が発生しても感染拡大防止に努め、休業することなくサービスを提供しました。

<通所介護事業実績> (暫定・障がいを除く)

年度	一般	認知症	総合事業		合計	平均 利用率
			サービスA	従前相当		
R3	46,495人	9,596人	1,708人	4,381人	62,180人	67.3%
R4	42,552人	7,346人	1,675人	3,891人	55,464人	64.4%
R5	42,946人	7,538人	2,275人	4,098人	56,857人	71.5%

## ② 訪問介護事業

利用者が住み慣れた地域の中で、自分らしい生活の楽しみを見つけながら在宅生活を維持できるよう、関係機関との連携のもと、きめ細やかなサービス提供に努めました。また、計画的に各種研修を受講することで、職員のスキルアップを図り専門性の高い訪問介護事業所を目指しました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため利用を控える利用者はいましたが、令和4年度と比較し訪問回数の落ち込みは微減にとどまりました。

<訪問介護事業実績>

年度	項目	一般			総合事業(従前相当)		合計
		身体介護	身体生活	生活援助	身体含む	生活のみ	
R3	回数(回)	21,681	5,811	13,809	2,467	6,227	49,995
	割合(%)	43.4	11.6	27.6	4.9	12.5	100.0
R4	回数(回)	18,773	7,028	9,798	2,397	5,495	43,491
	割合(%)	43.2	16.2	22.5	5.5	12.6	100.0
R5	回数(回)	19,469	7,439	7,974	2,521	5,254	42,657
	割合(%)	45.7	17.4	18.7	5.9	12.3	100.0

<会員制訪問介護事業実績(いきいきヘルパー)>

年度	延べ利用人数	利用人数(実人数)	延べ利用時間
R3	6人	2人	27.0時間
R4	0人	0人	0時間
R5	0人	0人	0時間

### ③ 居宅介護支援事業

医療と介護の連携や質の高いケアマネジメントの推進が求められているため、計画的に会議や研修会を開催し職員の資質向上に努めるとともに、多職種連携のもと、日常の様々な場面で本人の潜在能力を引き出すことができるようなケアプランを作成しました。

＜ケアプラン作成数＞ (単位：件)

年度	要介護		要支援 1・2	事業対象	合 計
	要介護 1・2	要介護 3・4・5			
R3	7,823	3,880	2,605	695	15,003
R4	6,769	3,525	2,741	674	13,709
R5	6,685	3,432	2,821	722	13,660

※暫定除く

### ④ 短期入所事業

利用者やその家族が必要とするときに、必要なサービスを適切に提供できるよう居宅介護支援事業所との緊密な連携に努めながら職員間で利用者の情報を共有し、安心して利用していただけるように努めました。

短期入所センターはちもりは、収支改善を図るため、経営基盤の強化に向けたプロジェクト会議での検討を踏まえ、6月からグループホームへ事業転換しました。

＜短期入所事業利用実績＞

年度	おおやま			はちもり		
	延べ利用人数	利用率	平均介護度	延べ利用人数	利用率	平均介護度
R3	8,256 人	87.0%	2.7	3,023 人	92.0%	2.6
R4	7,518 人	79.2%	2.6	2,742 人	86.3%	2.8
R5	8,208 人	90.6%	2.6	391 人	84.1%	2.5

※はちもり：令和5年6月～グループホームへ転換

### ⑤ 特別養護老人ホーム、グループホーム

利用者一人ひとりのこれまでの生活を理解、尊重するとともに、その人らしさを大切に、家庭的な温かい雰囲気の中で日常生活の支援を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域交流は十分に実施できませんでしたが、利用者には季節ごとの施設行事を通して心豊かな生活が送れるよう努めました。

令和4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、利用者家族からはオンライン面会や窓越し面会などの協力をお願いしてきましたが、段階的に対面方法を緩和、6月からは対面式面会を、年明け1月からは居室内での短時間面会を再開しました。また、遠方の利用者家族のニーズを考慮しオンライン面会も継続、限られた時間の中で有意義に過ごすことができました。

グループホームはちもりは、短期入所事業をグループホームへ事業転換したことに伴い、6月から2ユニットで運営しました。

＜特別養護老人ホームおおやま＞ 定員 124 人

年度	延べ入居人数	入居率	平均介護度
R3	44,351 人	98.0%	4.0
R4	44,170 人	97.6%	4.0
R5	44,342 人	97.7%	4.0

＜グループホームはちもり＞ 定員 9 人 ※R5.6～定員 18 人

年度	延べ入居人数	入居率	平均介護度
R3	3,283 人	99.9%	2.8
R4	3,263 人	99.3%	2.7
R5	5,786 人	95.8%	2.2

#### ⑥ 高齢者生活福祉センター（鶴岡市委託事業）

高齢者に対して、生活支援、居住及び交流などを総合的に提供することにより、安心して健康で明るい生活を送れるよう支援しました。

＜くしびき高齢者生活福祉センター＞ 定員 10 人

年度	延べ入居者数	入居者数（一日平均）	入居率
R3	1,349 人	3.7 人	37.0%
R4	727 人	2.0 人	19.9%
R5	884 人	2.4 人	24.2%

#### (4) 独自事業

##### ① 介護職員初任者研修

令和4年度に引き続き、日中就労されている方等が働きながら資格取得ができるよう、講義の多くを夜間に開催しながら介護職員の養成に努めました。令和5年度は4名が受講し、全員終了することができました。

＜受講状況＞

（単位：人）

年度	受講者数	修了者数	募集定員（内社協卒）
R3	14 (2)	12 (2)	20 (5)
R4	11 (1)	11 (1)	20 (5)
R5	4 (0)	4 (0)	20 (5)

## ② 専門職資質向上研修

新型コロナウイルス感染症の観点から、オンライン研修を活用しながら、職員一人ひとりの専門性を高めるため、専門職研修、認知症実践者研修、相談業務等の研修に積極的に派遣し、専門的ケアの資格者を増やし、サービスの質の向上に努めました。

<研修参加人数と内容>

	内 訳	参加人数	内 容
事業推進課企画	安全運転研修会	53人	表 題：「交通事故防止について」 開催日：令和5年11月21日（火） 講 師：鶴岡警察署交通課 交通係長 大瀧泰義氏
	虐待防止・身体拘束適正化研修会①	37人	表 題：「虐待ゼロ・身体拘束ゼロに向けて ～法的視点からのヒント」 開催日：令和5年7月25日（火） 講 師：日詰法律事務所 弁護士 日詰直史氏
	虐待防止・身体拘束適正化研修会②	32人	表 題：「身体拘束適正化について」 「高齢者虐待について学ぼう」 開催日：令和5年12月22日（金） 講 師：山形県慈丘園 副園長 富樫伸氏 地域包括支援センターかたりあい 所長 佐藤美恵氏
	制度改正研修会	47人	表 題：「介護福祉経営セミナー」 「障害福祉経営セミナー」 開催日：令和5年11月2日（木） 講 師：小濱介護経営事務所 代表 小濱道博氏
専門職研修	事業経営研修	26人	表 題：「ラクアから見るデイサービスの経営 方法」 開催日：令和5年9月20日（水） 講 師：フロンティアグループ 代表取締役 三嶋正貴氏
	通所介護	26人	表 題：「視察研修報告会」 開催日：令和5年11月16日（木） 報告者：視察研修派遣職員

	居宅介護支援	30人	表題：「カスタマーハラスメントについて」 開催日：令和5年10月23日（月） 講師：ケアタウン総合研究所 代表 高室成幸氏
派遣研修	外部派遣	13人	高齢者福祉関係新任職員研修 先進地視察研修（フロンティアグループ） 災害派遣福祉チーム員養成基礎研修 交通安全講習会
	資格取得派遣	40人	主任介護支援専門員研修 主任介護支援専門員更新研修 介護支援専門員更新研修（専門研修課程Ⅰ） 介護支援専門員更新研修（専門研修課程Ⅱ） 認知症介護基礎研修 認知症介護実践リーダー研修 認知症介護実践者研修 認知症対応型サービス事業管理者研修 障がい者相談支援従事者研修（特別研修） 障がい者相談支援従事者研修（現任研修） サービス管理責任者研修（基礎研修） サービス管理責任者研修（実践研修） サービス管理責任者研修（更新研修） 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）
		2人	リスクマネジャー養成講座 リスクマネジャー実践講座
各施設研修（内部・外部）	居宅介護支援	926人	法令遵守・服務規律 他法人との合同事例検討会 身体拘束と虐待 等
	通所介護	592人	虐待防止・身体拘束適正化 感染症予防 認知症の正しい知識と理解 等
	訪問介護	1,200人	チームワークの重要性 精神障がい研修 感染症 虐待防止・身体拘束適正化 等

おおやま入居 (特養・短期)	1,304 人	理念・法令遵守 感染症対策 リスクマネジメント 等
はちもり (GH・短期)	106 人	食中毒予防 感染対策 虐待防止・身体拘束適正化 等
障がいサービス	273 人	虐待防止・身体拘束適正化 支援力向上研修 等
合計 (延べ)	4,401 人	

※合計 (延べ) には障がい福祉サービス事業も含む。



## 5. 障がい者福祉事業

### (1) 総括

利用者が、地域の中で安心して自立した日常生活を送ることができるように、関係機関との連携を図りながら、意思決定の支援を心掛け、利用者の望む暮らしに向けた支援と権利擁護の推進を図りました。

障害者相談支援事業所や他の事業との連携のもと、自立支援の視点を持ちながら一人ひとりのニーズに沿った個別支援を充実させ、利用者に寄り添った支援に努めました。

新型コロナウイルス感染症などの感染症については、感染防止対策の強化を図り、感染症の発生及びまん延等を防止し、利用者や家族介護者が安心して利用できるよう取り組みました。

障がい福祉サービスの利用状況を令和4年度と比較すると、就労継続支援で延べ利用者数が914人減、生活介護で延べ利用者数が99人減、訪問介護は延べ訪問回数が497回増となりました。新規利用者が減少している状況で経営的にも厳しい状況は続きましたが、良質な福祉サービスの充実を図り、利用者や家族介護者、地域住民から選ばれる施設を目指しました。

事業展開については、利用者の高齢化に伴うもみじが丘の就労継続支援B型事業所の定員見直しを10月に実施、また、12月にはなえぶ生活介護事業所の利用対象者の追加（知的障がい者、難病者等）を実施しました。

### (2) 重点事業

#### ① 障がい福祉サービスの充実

利用者一人ひとりのニーズを的確に把握して、将来を見据えた個別支援計画に基づき、施設内の職員の連携はもとより事業所を超えた他職種が連携し合い、地域の中で暮らす「本人らしい生活」を支えることに努めました。

温海グループホーム茶や町荘は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう地域行事に参加するなど地域との交流を進めるとともに、日常生活上の援助を適切に行うよう努めました。

#### ② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、障害者差別解消法や障害者虐待防止法などの制度の学習を通し、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

また、虐待防止研修や身体拘束適正化研修、接遇研修を実施するなど職員の意識向上を図りました。

### ③ 利用者工賃増額の取組

時代に即した製品の開発や品質の向上、ホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組み利用者工賃の増額に努めましたが、長引く新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい販売状況が続きました。

かたぐるまのパン販売は令和4年度比で80万円弱の収入増となり、引き続き1人あたりの平均工賃支給額は1万円以上となりました。

もみじが丘の販売状況は令和4年度とほぼ横ばいでしたが、定員見直しにより1人あたりの工賃支給額の増額につながり、1万円以上となりました。

### ④ リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント委員会による取組の中で、障がい福祉サービスにおける事故や苦情の分析・評価を明確にし、リスクマネジメントの共有を図るとともに、利用者自らが危険防止に対する活動に参画するなど意識の向上に努めました。

### ◆介護事故報告

令和5年度の事故件数は35件となり、令和4年度比19件増となりました。35件中、職員の身体事故（労働災害）が7件発生してしまいました。

<事故件数>

(単位：件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
R3	0	3	12	20	35
R4	0	2	5	9	16
R5	0	1	6	28	35

### ⑤ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症などの感染症に対する理解と意識を深めるため、リスクマネジメント委員会や看護師会議を中心に研修の実施やマニュアルの確認などを行うとともに、マスクや消毒液など衛生用品の備蓄を進めました。

### ⑥ 災害時における地域と連携した対応

災害が発生した場合に地域組織等との連携・協力が大切であることから、避難訓練等の実施に当たっては地域住民の参加が得られるよう連携を図ることとしており、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら、可能な限り地域との交流を図りました。

### ⑦ 地域交流・地域貢献の推進

地域の方々との交流や環境美化活動・イベント等への積極的な参加を通し、利用者が地域へ出ていく活動を進めると同時に、地域住民から施設に足を運んでいただく機会などをつ

くり、地域交流の充実を図ることとしていますが、新型コロナウイルス感染症の影響で十分な取組はできませんでしたが、できることから少しずつ再開しました。

### (3) 障がい者福祉関連事業

#### ① 就労継続支援事業

利用者が生産活動やその他の活動を通し、自立した日常生活や社会生活が送れるよう就労の機会を提供するとともに、積極的に地域との関わりを深め施設から情報発信を行い、障がい者理解と協力の輪を広げました。また、新製品の開発や品質の向上、新たにホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組みました。

＜就労継続支援事業B型の延べ利用者数＞ (単位：人)

年度	かたぐるま	もみじが丘	合計
R3	4,223	4,313	8,536
R4	4,552	4,048	8,600
R5	4,524	3,162	7,686

#### ② 在宅支援事業

利用者一人ひとりの障がい特性や個別ニーズに応じ、安心して在宅生活が送れるよう職員の資質向上に努め、支援力の向上を図りました。

特に、居宅介護・重度訪問介護事業では、訪問介護員の障がい者支援の専門性を高めるため、研修会への積極的な参加や施設実習、喀痰吸引等の専門的な資格を取得し、障がい者の在宅生活を支え信頼される事業所を目指しました。

＜生活介護・自立訓練（生活訓練）の利用状況＞

年度	なえづ		かたぐるま		わくわく		もみじが丘	
	延べ利用者数	平均利用者数	延べ利用者数	平均利用者数	延べ利用者数	平均利用者数	延べ利用者数	平均利用者数
R3	2,540	8.4	8,222	26.9	—	—	1,863	6.9
R4	2,244	8.8	8,517	27.6	—	—	1,931	7.2
R5	2,184	8.5	6,638	21.5	2,063	8.4	1,708	6.3

※かたぐるま延べ利用者数に自立訓練（生活訓練）利用者含む。R4.4月から利用者無し。

※なえづ R4.4月から土日休業。

※わくわく生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所 R5.4月から開設。

<訪問介護事業 延べ利用回数>

(単位：回)

年度	居宅介護		重度訪問	移動支援	合計
	身体介護	家事援助			
R3	8,996	4,770	1,292	105	15,163
R4	8,568	4,655	1,289	78	14,590
R5	8,353	5,406	1,245	83	15,087

<短期入所事業利用実績>

年度	おおやま		はちもり	
	延べ利用人数	平均障害度	延べ利用人数	平均障害度
R3	43人	5.9	391人	4.3
R4	38人	5.8	362人	4.4
R5	418人	4.9	71人	4.3

※はちもり R5.6月からグループホームに転換。

③ 共同生活援助事業（グループホーム）

利用者が健康で元気に過ごすことができるよう身体状況の変化に早い段階で気づくとともに、感染症予防に留意した適切な環境づくりに取り組みました。

また、温海グループホーム茶ヤ町荘では、津波地震訓練などの地域行事に参加し、地域住民との交流を図りました。

<温海グループホーム茶ヤ町荘> 定員6人（男性）

年度	延べ入居人数	入居人数（実人数）	入居率
R3	1,530人	5人	69.9%
R4	1,794人	5人	81.9%
R5	1,066人	4人	48.5%

## 6. 児童福祉事業

### (1) 総括

児童福祉事業においては、新型コロナウイルス感染症が5月8日から感染症法上5類に位置づけされましたが、基本的な感染対策は状況に応じて求められることから、適切な感染予防対策に努めながら子育て家庭の支援を行い、子どもの健全育成を図りました。

保育所、児童館、放課後児童健全育成事業で行ってきた様々な事業については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、取りやめとしたものも多くありましたが、実施内容を精査し、再開できるように努めました。

また、「第三期事業経営計画」の実施スケジュールを再検討しながら、各施設における安全計画の作成や感染症対策マニュアル等の見直しを実施しました。

### (2) 保育所

保育所においては、子どもたちが健康で落ち着いた生活ができるよう、一人ひとりの思いを受けとめながら、意欲的に活動や遊びができる保育環境づくりに努めました。また、衛生や安全管理等について配慮するとともに、子どもたちが安心して過ごせるように家庭との連携も密にしながら保育を進めました。

行事については、様々な感染症の状況を注視しながらの再開となりましたが、保育園での子どもたちの様子を見ていただく機会を多く設けることができました。

令和7年度の保育園統合に向けて、市担当課と連携しながら保護者や地域住民に向けた説明会を実施し、丁寧な説明を心掛け理解を得ることができました。

<園児数の推移>

(各年度末現在/単位：人)

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
令和4年度	くしびき保育園	15	20	23				58
	くしびき東部保育園	7	4	8	5	11	14	49
	くしびき西部保育園				26	28	33	87
	くしびき南部保育園	8	5	3	7	11	11	45
	合計	30	29	34	38	50	58	239

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
令和5年度	くしびき保育園	18	16	22				56
	くしびき東部保育園	3	6	5	9	5	11	39
	くしびき西部保育園				21	25	28	74
	くしびき南部保育園	3	8	7	6	9	11	44
	合計	24	30	34	36	39	50	213

### (3) 子育て支援センター

くしびき子育て支援センターでは、出生数の減少に伴い利用者数も減少しましたが、育児休暇期間に何度も足を運んで事業に参加する方が多く見受けられました。低年齢でも安心して遊べる遊具を用意して保育環境を整え、主催事業を通してお子さんを遊ばせながら利用者同士が交流できるようにし、安心して子どもを産み育てられる地域づくりに努めました。

### (4) 児童館

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類になったこともあり、自由来館者数が増加しました。また、利用人数や利用時間、飲食などの制限を緩和したことで、より利用しやすくなったことも来館者増加につながったと考えられます。

幼児クラブや主催行事では、引き続き感染対策を行いながら、子どもや親子、保護者同士が安心して集える居場所づくりに努めました。

児童館共催事業の児童館チャレンジデーでは、児童館共通の 2 つのチャレンジ(ゲーム)の他、それぞれの児童館独自の活動も加え、児童館ごと開催日時をずらして、5 児童館全てを廻って遊びを楽しむこともできるように設定しました。

<児童館利用状況>

(各年度末現在/単位：人)

令和4年度		中央	大山	西部	南部	暘光	合計
	自由来館	10,949	1,481	3,645	3,481	3,507	23,063
各種行事等	1,767	297	1,037	1,346	2,096	6,543	
学童保育	13,836	14,205	13,956	31,467	30,139	103,603	
合計	26,552	15,983	18,638	36,294	35,742	133,209	

令和5年度		中央	大山	西部	南部	暘光	合計
	自由来館	14,585	1,970	6,292	5,607	4,383	32,837
各種行事等	3,528	431	1,332	1,535	1,496	8,322	
学童保育	11,562	13,606	18,066	32,461	32,335	108,030	
合計	29,675	16,007	25,690	39,603	38,214	149,189	

### (5) 学童保育所及び放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）

学童保育所及び放課後児童クラブでは、引き続き感染症対策を実施し、児童が安心して過ごせるように支援を行いました。感染症が流行した際には、地域の小学校と連携した迅速な情報発信を心掛け、学年や学級閉鎖に合わせた最小限の利用休止をお願いをするなど、子育て家庭の支援に努めました。

令和6年度の第四学区学童保育所の支援単位増設に伴う、旧鶴岡市立南部保育園の分館としての利用に向けて、市担当課と連携しながら建物の改修工事を実施しました。

<学童保育登録児童数の推移>

(各年度末現在/単位：人)

		令和4年度		令和5年度	
		正規登録	特定登録	正規登録	特定登録
第二学童	やまびこ楽園	30	13	28	17
	こだま楽園	38	12	34	11
	合計	68	25	62	28
大山放兒	第1はらっぱ	31	22	36	14
	第2はらっぱ	40	13	32	16
	合計	71	35	68	30
西部放兒	ひまわり1組	36	9	35	13
	ひまわり2組	36	7	52	8
	合計	72	16	87	21
第一学童	星の子	26	12	32	12
	夢の子	28	10	31	11
	空の子	32	16	38	11
	花の子	39	9	31	13
	海の子	38	10	28	11
	合計	163	57	160	58
第四学童	太陽の子1	41	17	42	14
	太陽の子2	59	12	61	10
	太陽の子2	54	23	50	20
	合計	154	52	153	44
総計		528	185	530	181

#### (6) 子育て広場「まんまルーム」

新型コロナウイルス感染症に対する規制が大幅に緩和されたことで、居心地のよい心休まるスペースを求めて来館する方が多くなりました。子育て支援の拠点施設として、保護者同士の関係づくりや育児相談、子育てに関する情報発信など、乳幼児親子を対象とした事業の充実を図りました。

鶴岡市地域子育て支援拠点事業連絡会に参加し、関係機関との連携を密にすることで、支援が必要な乳幼児親子に対する情報交換や共通理解を図ることができました。

## 7. 苦情報告

令和5年度の苦情件数は70件で、判断基準の見直しを実施した令和4年度と比較すると1件の減で、ほぼ同数となりました。

令和5年度苦情解決第三者委員が関わったケースはありませんでした。

苦情の内容としては、職員のスキル・サービスの質、職員の支援内容・方法や職員の言動（言葉遣い・態度）、いわゆる職員の接遇に対する苦情が令和4年度より発生件数が増えました。特に職員の言動が苦情につながったケースでは、利用者やその家族に対する言葉かけに配慮が足りない、相手の立場に立った対応ができていないケースが多くありました。

今後も引き続き「接遇マニュアル」の活用や「コンプライアンス」の意識付けに取り組むとともに、「利用者の声」を大切にしながら質の良いサービスの提供、職員の指導や技術向上に取り組み、サービスの質の向上につながるよう努めます。

< 苦情件数 >

(単位：件)

部門 年度	事務局・老セン	通所介護	訪問介護	居宅介護支援	特別養護老人ホーム	短期入所	グループホーム	障がい施設	児童館・学童保育所・保育園	地域包括支援センター	福祉センター	合計
R3	0	71	19	23	2	15	1	36	15	1	0	183
R4	0	16	5	3	1	18	0	13	13	2	0	71
R5	0	25	5	4	4	15	1	6	10	0	0	70

※R4年度苦情受付の判断基準の見直しを実施。